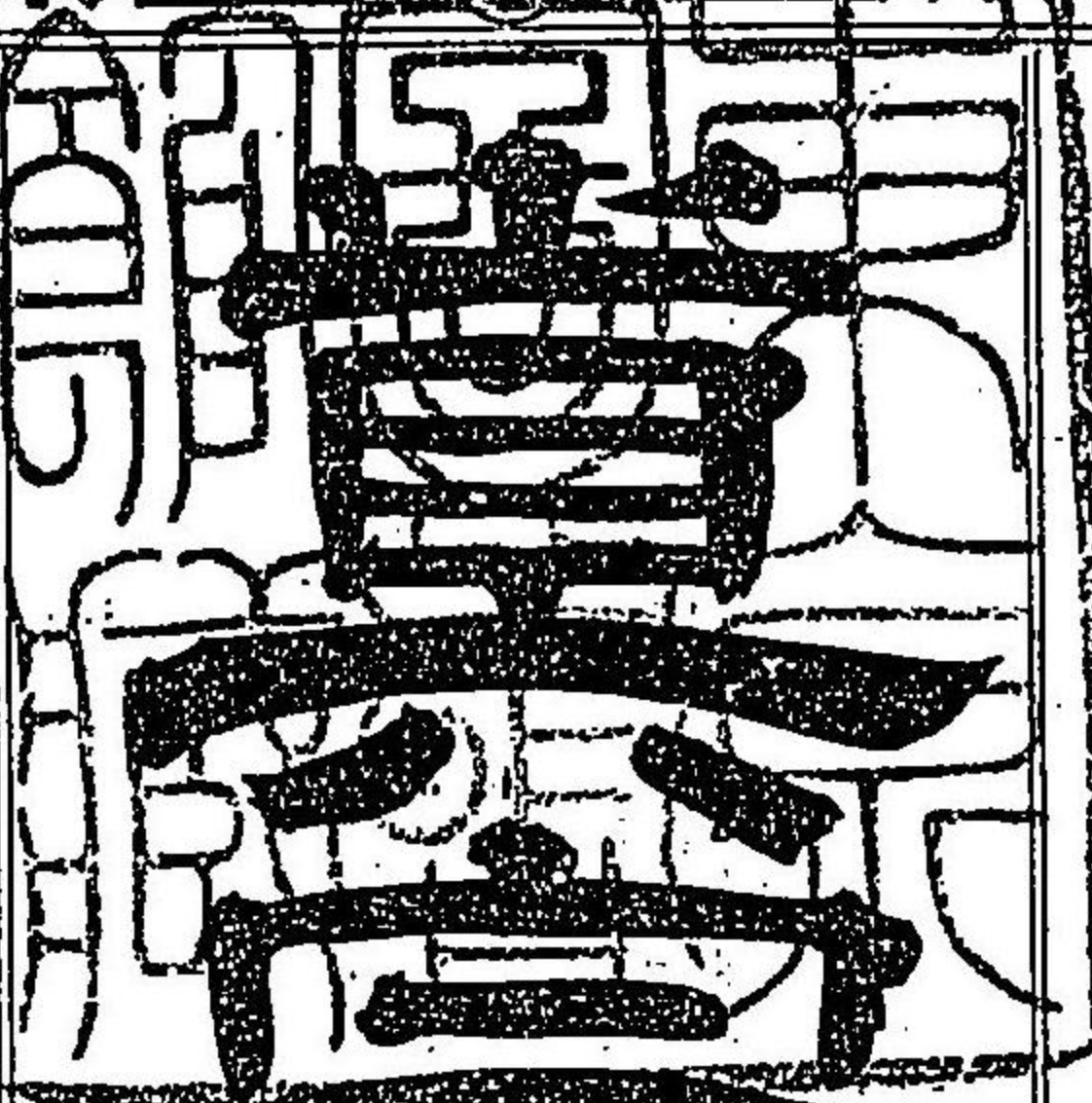


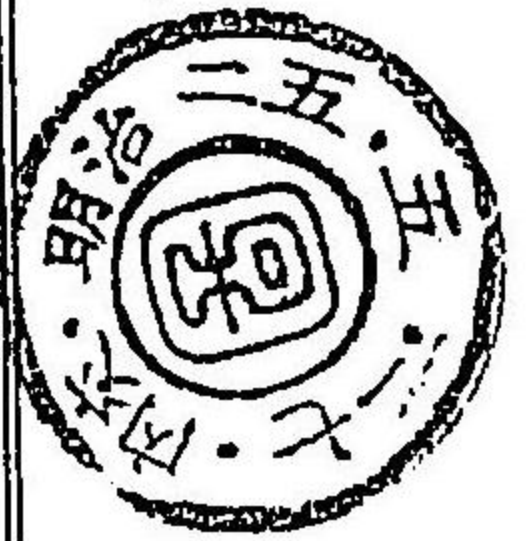
No. 700KSV.

井上圓了著



實宗哲學

序論



哲學書院發行

萬世流傳

袁世凱

緒言

一余ハ曾テ佛教活論中ニ佛教諸宗ハ各其長所アルヲ説クリ今此篇
ハ眞宗ノ長所ヲ説キタルモノナレハ眞宗ヲ以テ最勝完美ノ教トナ
セリ若シ他宗ノ長所ニ至テ之ヲ見レハ其宗亦佛教中最上ノ教タル
ヲ知ルヘシ是レ余カ顯正活論各論ニ於テ論明セント欲スル所ナリ
一余ハ宗教新論并佛教活論ニ於テ佛教ト哲學トノ關係ヲ論シテ佛教
ハ哲學的宗教ナリト云ヒタルニ此篇ハ佛教ハ宗教ニシテ人智以上
道理以外ニ涉ルモノナルヲ論シタルハ前後矛盾スル所アルカ如
シト雖モ哲學上ヨリ之ヲ視レハ佛教ハ徹頭徹尾哲理ノ應用ニアラ
サルハナク宗教上ヨリ之ヲ見レハ全教盡ク釋尊ノ啓示ニアラサル
ハナク表裏其見ヲ異ニスルモノナリ然ルニ他書ニテハ表面一方ヨ
リ之ヲ論シ此篇ニテハ表裏相對シテ之ヲ論シタルヲ以テ其論理ニ
二様相反ヲ見ルニ至レリ然レモ其實一樣ノ道理ナリ故ニ若シ哲學

上ヨリ之ヲ視レハ其所謂啓示モ皆道理以内ノ理ナルヲ知ルヘシ例
 へハ宗教ハ道理一方ニテ講究スヘカラサルモノナリト云フモ絶對
 ノ本體ハ知識ノ知ル限リニアラスト云フモ啓示ハ信セサルヘカラ
 スト云フモ理外ノ理アリト云フモ之ヲ證明スルハ一トシテ論理ニ
 由ラサルハナシ苟モ論理ニヨレハ道理以外ノ理モ道理以内トナリ
 人智以外ノ躰モ人智以内トナリ其講究ハ皆哲學ニ屬スヘシ是レ此
 篇ヲ眞宗哲學ト題スル所以ナリ

一此篇ハ余カ顯正活論各論中眞宗篇ヲ講述スルニ當リ論明セント欲
 スル意ナリシモ已ニ本篇端緒論ニ於テ一言セル如ク目下一日モ早
 ク眞宗ノ哲理ヲ世人ニ示サ、ルヲ得サル事情アリタレハ諸縣巡回
 中各地ニ於テ或ハ公衆ニ對シテ演說シ或ハ質問ニ對シテ應答シタ
 ルモノヲ日夜繁忙ノ中寸間ヲ偷ミ匆匆ノ際編成セルモノナレハ其
 複寫モ校合モ全ク他人ニ一任シ余カ不在中印刷ニ付シタルモノナ

リ故ニ定メテ認誤疎漏モ多カルヘシト信ス然シテ本篇ノ目的ハ唯
 眞宗教義ハ愚俗ノ妄信ニ屬スヘキモノニアラスシテ學者社會ノ講
 究スヘキモノナルヲ世人ニ示スニアルノミニテ其宗ノ教義ヲ講
 究スヘキ書ハ別ニ一宗ノ相傳ニ屬スルモノ多クハ宜ク其書ニツ
 イテ研習スヘシ

明治廿五年四月

著者誌

直宗哲學序論目錄

第一段 端緒論

第一節 發端

第二節 本篇起草之旨趣

第三節 護國愛理之兩大義務

第四節 真宗哲學講究之心要

第五節 本篇論述之順序

第二段 哲學原理論

第六節 哲學上之六難問

第七節 二樣并存一躰兩面之真理

第八節 此真理之證明法

第九節 哲學諸論之調解

目

錄

- 第十節 宗教諸說ノ一致
- 第三段 佛教原理論
- 第十一節 佛教總說
- 第十二節 有空二門ノ大意
- 第十三節 中道ノ大意
- 第十四節 理論宗ノ批評
- 第十五節 實際宗ノ起原
- 第四段 眞宗原理論第一
- 第十六節 眞宗原理ノ分類
- 第十七節 天台ノ平等論
- 第十八節 我人ノ知見
- 第十九節 天台淨土理論ノ相反
- 第二十節 天台淨土實際ノ相反

- 第二十一節 阿彌陀佛ノ性質
- 第二十二節 阿彌陀佛ノ證明
- 第二十三節 他力成佛ノ理
- 第五段 眞宗原理論第二
- 第二十四節 情感的宗教
- 第二十五節 我人ノ情感
- 第二十六節 佛身ノ情感
- 第二十七節 情感智力ノ兼備
- 第六段 眞宗原理論第三
- 第二十八節 道理ト啓示トノ別
- 第二十九節 人智ノ有限
- 第三十節 絕對ト啓示トノ關係
- 第三十一節 佛教ト啓示トノ關係

第三十二節 眞宗ト啓示トノ關係

第三十三節 道理ト啓示トノ並存

第七段 歸結論

第三十四節 聖道淨土ノ關係

第三十五節 平等差別ニ前後ヲ生スル理由

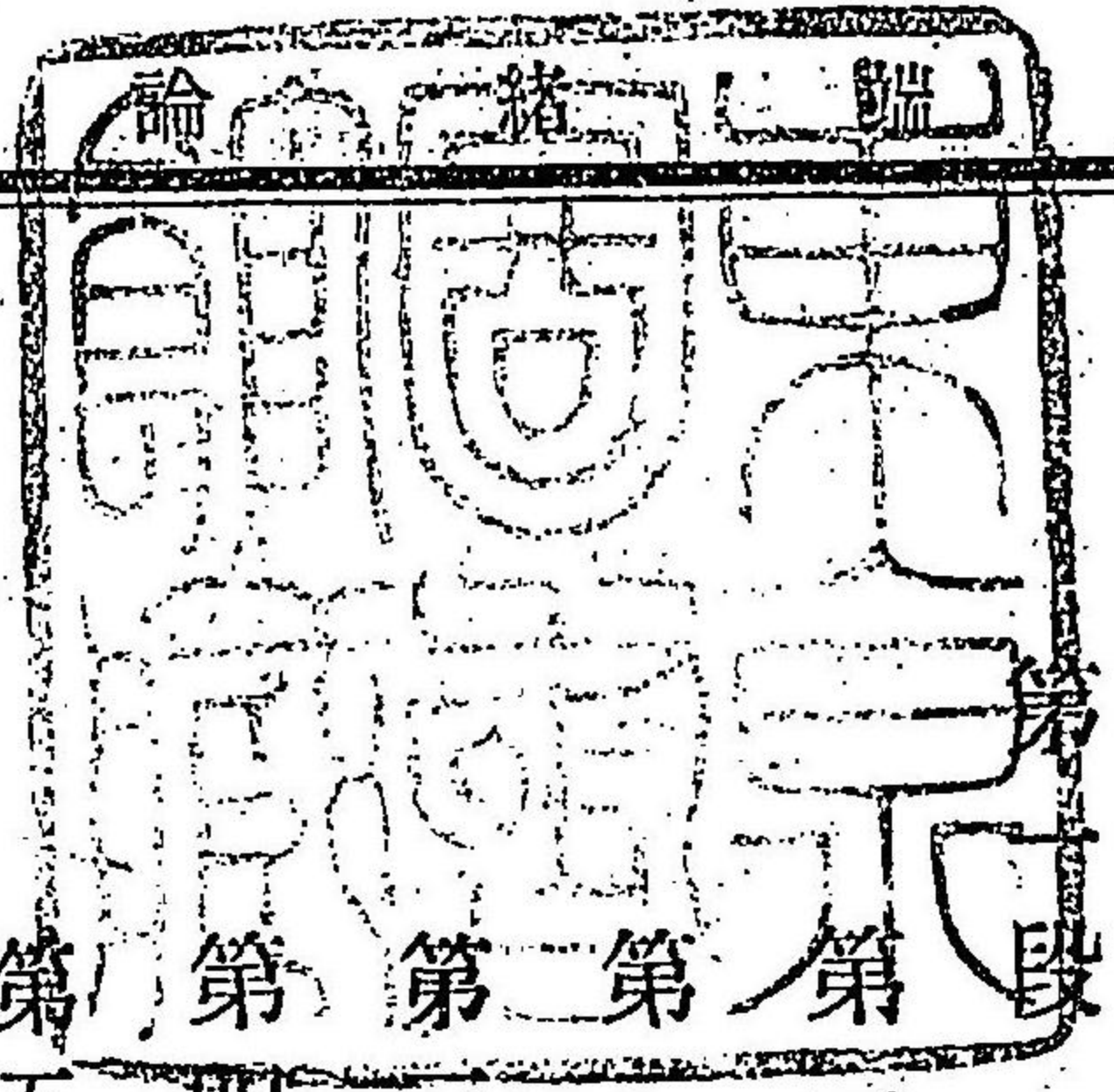
第三十六節 實際上眞宗ト他宗トノ關係

第三十七節 眞宗ト淨土宗トノ異同

第三十八節 眞宗ト政治トノ關係

眞宗哲學序論

井上圓了述



端緒論

第一節 發端

第一節 本篇起草ノ旨趣

第二節 護國愛理ノ二大義務

第三節 眞宗哲學講究ノ必要

第四節 本篇論述ノ順序

第五節 隣村ニ大火アリ延テ我村ニ及ハントス而シテ全村皆我親戚朋友ナレハ誰レノ家ヲ燒失スルモ我

第一節 發端

家ヲ燒失スルニ異ナラス故ニ一家ヲ擧ケテ出テ、力
 ナ消防ニ盡クシ幸ニ親戚朋友ヲシテ無難ナラシムル
 ナ得タルモ歸リテ我家ニ至レハ火片飛ヒテ其家ニ落
 チ全棟已ニ炎焰ノ中ニアルヲ見ル是ニ於テ一家ノ失
 望一方ナラス啻ニ其財産ヲ燒失セルヲ遺憾トスルノ
 ミナラス後日世間ノ笑柄トナランコトヲ恐ル是レ余カ
 一夜ノ夢ノミ醒メテ頭ヲ擧クレハ一家異狀ナシ是ニ
 於テ余ハ其全ク夢中ノ妄見ナルヲ知ル然リ而シテ今
 日我宗教界ノ事情ヲ觀察スルニ稍之ニ類スルモノア
 ルヲ見ル近世文明ノ烈火一タヒ歐米諸國ニ發シ尋テ

我邦ニ入り百般ノ事物之ニヨリテ忽チ類燒シ其猛勢
 當ルヘカラス我舊時ノ文物ノ如キ一朝ニシテ灰燼ニ
 屬セントシ其餘焰延テ我佛教ノ上ニ及ホシ諸宗共ニ
 實ニ危急ノ際ニ迫マリ是時ニ方リテ佛教中ノ諸宗諸
 派ハ皆親戚朋友ナレハ眞宗ノ門ニ住スルモノ諸宗ニ
 先チテ外難防禦ニ全力ヲ盡クシ道理ニ考ヘ事實ニ照
 シ佛教ハ文明社會ノ宗教學術世界ノ哲學ナルコトヲ證
 明シ世間亦已ニ之ヲ了知スルニ至レリ是レ恰モ一村
 ナシテ無難ナラシメタルニ異ナラス而シテ顧テ眞宗
 其者ヲ見レハ他宗ハ此盡力ニヨリテ文明學術ノ宗教

眞宗哲學序論

トナルヲ得タルモ獨リ其宗ハ之レカ爲メニ却テ下等
 愚民ノ宗教ニ陷ルニ至レリ果シテ然ラハ諸宗ノ危難
 ナ救ヒタルモノハ眞宗ノ人ニシテ眞宗ノ危難ヲ招キ
 タルモノモ亦眞宗ノ人ナリト云ハサルヘカラス是レ
 恰モ親戚ノ火難ヲ救テ自家ノ燒失ヲ知ラサルモノニ
 比スヘシ余ハ嘗ニ之ヲ眞宗一家ノ不幸トスルノミナ
 ラス眞宗門下ノ人ノ他日世間ノ笑ヲ取ランコト恐ル
 ナリ是ニ至テ之ヲ觀ルニ余ガ一夕ノ夢想ハ全ク睡
 眠中ノ妄見ニアラサルヲ知ル

第二節 近年我邦ノ佛教ト西洋ノ學術トヲ比較シテ

端緒論

佛教ハ哲學上ノ宗教ナリト論シ耶蘇教ノ妄説ト同一
 視スヘカラスト唱ヘタルモノハ果シテ誰ソヤ蓋シ世
 間其人多キモ余ハ其一人ナリ否其率先者ナレハ其結
 果他宗ヲ助ケテ眞宗ヲ害スルニ至リタルノ責ハ獨リ
 之ヲ他人ニ歸スヘカラス余モ固ヨリ其一部分ヲ負ハ
 サルヲ得ス抑モ余ガ大聲一呼天下ニ先チテ破邪顯正
 ナ唱道シタルハ當時世間ニアリテ苟モ多少ノ學識ヲ
 有スルモノハ皆佛教ヲ目シテ妄誕不經ノ説トナシ蠻
 民愚俗ノ教トナシ之ヲ傳道スル僧侶ハ勿論之ヲ奉信
 スル徒迄モ擯斥セントスルニ至レリ而シテ當時佛教

ノ門内ニアルモノハ頑眠迷夢ノ間ニ彷徨シテ未タ文明ノ新天地ヲ知ラサリシヲ以テ世間ヨリ如何ニ擯斥セララル、モ五里霧中ニ經過シ去ラントセリ余此ニ於テ憤然トシテ志ヲ立テ日夜佛教ヲ探究ニ拮据シ其教内ニ眞理ノ寶珠ヲ胚胎セルヲ發見シテ以來余ハ平素眞理ヲ愛賞スル一片ノ赤心ヲ有スルヤ退テ之ヲ秘藏スルニ忍ヒス進テ之ヲ天下ニ發表シ内ニハ僧家ノ不學ヲ呵責シ外ニハ世間ノ無識ヲ喚起シ佛教界内ニ學術講究ノ新道ヲ開鑿セリ即チ佛教活論是レナリ而シテ其論ハ余ガ眞理ヲ愛シ國家ヲ思フノ衷情ヨリ混々

トシテ流レ出テタルモノナレハ佛教中更ニ宗派ノ異同ヲ問ハス苟モ多少ノ眞理ヲ包有セルモノハ盡ク之ヲ啓發シテ廣ク其光輝ヲ天下ニ放タシメシコトヲ目的トセリ故チ以テ當時一宗一派ノ小利害ヲ顧ルノ暇アラサリキ然レモ余ガ意敢テ眞宗ヲ道理城外ノ塵芥中ニ捨ツルノ意ナランヤ已ニ活論序論中ニ於テ聖道淨土ノ二門ヲ比較シテ聖道門ハ智力的宗教ニシテ淨土門ハ情感的宗教ナリ其一ハ智者學者ニ適シ其二ハ愚夫愚婦ニ適スト説キタルモ其後更ニ其意ヲ敷衍シテ佛教ノ本躰ハ智力的宗教ナレハ縱令淨土門ノ如キハ

情感ノ性質ヲ帶フルモ恰モ智力ノ骨髓ヲ覆フニ情感
ノ皮肉ヲ以テシタルニ過キス其教理ハ固ヨリ餘宗ト
同シク道理ヲ以テ講究スヘキモノナルヲ論シ來リ
テ佛教ノ淨土門ト耶蘇教ノ教理ト同日ノ比ニアラサ
ル所以ヲ證セリ故ニ余ハ決シテ眞宗ヲ以テ單ニ下等
愚民ノ宗教ナリト信スルモノニアラス然ルニ淨土門
中ニアリテ眞宗ノ教義ヲ傳フルモノ陽ニ佛教ハ學術
上ノ眞理ナリト唱ヘナカラ陰ニ眞宗ノ哲理ニ合セサ
ルヲ許スガ如キ風アリ其故ハ余近頃眞宗僧侶ノ公衆
ニ對シテ演說スル所ヲ聞クニ或ハ法鉢恒有ト題シ或

ハ三界唯心ト題シ或ハ賴耶緣起或ハ眞如緣起ト題シ
テ喋々聖道諸宗ノ哲理ヲ辨明シ去リテ復タ餘蘊ヲク
實ニ人ナシテ其高妙ニ感セシムルモ淨土一門ノ教義
ニ至リテハ其人ノ演說中一言半語ノ之ニ及フヲナシ
而シテ轉シテ愚夫愚婦ノ前ニ至レハ演說忽チ變シテ
說教トナリ眞宗一流ノ安心ヲ述ヘ他力成佛極樂往生
ノ道ヲ說キ來リテ盡クサ、ルナシト雖モ更ニ學理ニ
關シテ其宗義ヲ論明スルヲナシ說教ト演說ト何ンゾ
此ノ如キ徑庭アルヤ說教ハ愚者ヲ目的トシ演說ハ智
者ヲ目的トスルニヨルカ然ラハ何故ニ眞宗ノ教理ヲ

演說壇上ニ於テ學理ニ照シテ一々論明セサルヤ是ニ由テ之ヲ考フルニ眞宗ノ僧家自ラ其宗ハ愚俗淺近ノ宗教ナレハ智者學者ノ前ニ講述スヘカラサルモノト信スルガ如シ是レ余ガ深ク怪ム所ナリ他日顯正活論ノ眞宗篇ヲ講述スルニ及ヒ其教理ノ學理ニ基クテヲ辨明セント欲スルモ今日ノ勢、一日モ早ク其哲理ヲ世間ニ報道セサルヲ得サル場合ニ至リタレハ即時ニ余ガ思フ儘ヲ筆シテ一小冊子トナス即チ此書ナリ之ヲ總題シテ眞宗哲學ト名クルハ淨土門ノ智力ノ骨髓ト情感ノ皮肉トノ組織中ヨリ特ニ骨髓ノ部分ヲ取り出

シテ眞宗一家ノ原理ヲ論定センコトヲ試ミタルニヨル而シテ其原理ハ即チ淨土諸宗ノ原理ナレハ眞宗哲學ト題スルモ其實淨土門哲學ナリ故ニ若シ之ヲ講述シ終レハ更ニ其原理ヨリ分派セル眞宗一家特有ノ諸說ヲ一々證明セサルヘカラス是レ實ニ眞宗哲學ノ本論ニシテ余カ他日起草セント欲スル所ナリ故ニ今其本論ニ對シテ此篇ヲ眞宗哲學序論ト題スルナリ

第三節 此ノ如ク眞宗哲學ヲ講究スルニ序論ト本論トヲ分チ序論ハ淨土門一般ノ原理ヲ總說シ本論ハ眞宗一家ノ組織ヲ別述スルヲ期スルモ其實哲學上ノ講

究ハ主トシテ此原理ノ上ニアリ若シ其細目ニ至リテ
 ハ一宗所立ノ規則制度ニ關スルヲ以テ理論ヨリハ寧
 ロ實際ニ屬スル問題ナリ換言スレハ哲學ヨリハ寧ロ
 單純ノ宗教ニ屬スル部類ナリ智力ノ骨髓ヨリハ寧ロ
 情感ノ皮肉ニ屬スル部分ナリ然ルニ今日世間ノ論者
 ハ一般ニ宗教ノ實際ハ佛教諸宗中眞宗ニ過キタルモ
 ノナキヲ許スモ獨リ理論上ノ講究ニ至リテハ眞宗ヲ
 擯斥シテ遙ニ他宗ノ下ニアリトナス故ニ余ガ特ニ此
 ニ證明ヲ要スル點ハ理論上ノ原理ニアルヲ明カナリ
 是レ余ガ多忙ノ際此一篇ヲ論述スルニ至リタル所以

ナリ凡ソ余ガ畢生ノ志願ハ世間已ニ知ルガ如ク國家
 ナ護シ眞理ヲ愛スルニ大目的ヲ達スルニ外ナラス今
 眞宗ハ實際上國家ノ隆運ヲ補翼スルニ適スル宗教ナ
 ルヲハ世間已ニ之ヲ許ス以上ハ余ハ更ニ理論上其原
 理ノ講究スヘキ價值アルヲ世人ニ報道スルヲ以テ
 余ガ第二ノ目的タル眞理ニ對スル本務ナリト信ス余
 ハモト眞宗ノ家ニ生レシモ維新以後社會ノ事情ヲ觀
 察スルニ及ヒテ以爲ラク今日ハ佛教ノ全家將ニ顛覆
 セントスル時ナリ豈一宗一派ノ隅位ニ立チテ一小柱
 石ヲ支フルニ汲々スルノ時ナランヤ寧ロ局外ニ出テ

、佛日回天ノ功ヲ立ツルニ若カスト而シテ又近年泰西ノ實況ヲ見聞スルニ及ヒ國家將來ノ獨立ノ難キヲ感ジ余輩苟モ此國ノ人民タル以上ハ國家百年ノ大計ヲ立テザルベカラザルヲ知り進テ少年教育ノ道ニ當リ國家有爲ノ人物ヲ養成スルヲ以テ之ヲ任ジ天下公衆ニ對シテ人世ノ義務ハ護國愛理ノ外ニ出デザル所以ヲ唱道シ先キニ佛教活論ヲ著ハシテ其赤心ノアル所ヲ發表セリ故ニ余ガ此ニ眞宗哲學ヲ講述スルハ眞宗一局部ノ爲メニ思フ所アリテ然ルニアラズ余ガ平素懷抱セル護國愛理ノ一念溢レ出デ、此ニ至ルナリ

眞宗已ニ哲理ノ講究スベキモノヲ有シテ世間之ヲ知ラザルハ苟モ學術ニ志アルモノ豈默々ニ附シ去ルニ忍ンヤ又此ノ如キ眞理ヲ含有スル宗旨ハ我邦ニ開立セル新宗ニシテ我多數人民ノ奉信スル宗教ナルヲ知ルハ苟モ國民タルモノ國家ノ爲メニ豈之ヲ不問ニ屬スルヲ得ンヤ今余ハ此精神ヲ以テ眞宗ヲ論評スルモノナレバ自然ニ一宗一派ノ局位ニアリテ講究スルモノト其意見ヲ異ニスル所アルヘシ且ツ余カ目的ハ眞宗門外ノ人ニ其哲理ノ一般ヲ示スニアレハ務メテ世間ノ學術上ニ用ヒ來レル文字ヲ以テ説明シ眞宗

一家相傳ノ語法ニ倣ハサルモ是レ亦已ムヲ得サルナ
 リ
 第四節 先ツ余カ眞宗哲學講究上ニ於テ局位ニアル
 二三ノ論者ト意見ヲ異ニスル點ヲ述フヘシ其論者ハ
 近年佛教ヲ學術上講究スルノ風行ハレテ以來、聖道門
 諸宗ノ教理ハ大ニ利益ヲ得タルモ眞宗ノ教理ニ至テ
 ハ却テ不利ヲ感スルヲ見テ日ク宗教ハ理外ノ理ナリ
 哲學ヲ以テ是非ヲ判スヘキニアラス佛教ハ佛教ナリ
 哲學ハ哲學ナリ此二者豈混同スヘケンヤト是レ眞宗
 ナ愛念スル赤心ヨリ出テタルモノナレハ其衷情誠ニ

嘆稱スヘシト雖モ畢竟論者ハ哲學ハ西洋一種ノ學ニ
 シテ佛教ト全ク關係ヲ異ニスルモノト偏信シ哲學ヲ
 以テ佛教ヲ論スルハ寒暖計ヲ以テ物ノ寸尺ヲ計ラン
 トスルカ如ク想像スルニヨル然ルニ哲學ハ道理思想
 ヲ學ニシテ諸學ノ眞理ヲ判定スル學ナリ故ニ佛教ニ
 テモ儒教ニテモ道理上苟モ其眞理ヲ論定セシト欲ス
 レハ必ス哲學ノ講究法ニヨラサルヘカラス恰モ西洋
 ニテ空氣ノ溫度ヲ計ルニ寒暖計ヲ要シ我邦ニテ空氣
 ノ溫度ヲ計ルニ同ク寒暖計ヲ要スルニ異ナラス縱令
 其空氣ハ東西各異ナルモ其溫度ヲ計ルニ寒暖計ヲ要

スルハ東西同一ナリ今哲學ハ諸學諸教ノ眞理ノ溫度
ヲ測定スル寒暖計ナリ佛教全軀ノ眞理ヲ判定スルニ
モ此學ヲ要シ眞家一家ノ眞理ヲ判定スルニモ此學ヲ
要スルナリ若シ佛教家ニシテ哲學ヲ用ヒサルモハ何
ヲ以テ其教ト他教トノ優劣ヲ判セシヤ眞宗論者ニシ
テ哲學ニヨラサルモハ何ヲ以テ其宗ト餘宗トノ長短
ヲ定メンヤ然ルニ眞宗學者ハ誰レニテモ必ズ我宗ノ
教義ハ眞理ナリ耶蘇教ハ眞理ニアラスト自ラ信シ又
人ニ公言スルニアラズヤ是レ表面ニ哲學ヲ排斥シテ
ガラ裏面ニ哲理ヲ應用スルモノト謂フヘシ若シ又眞

宗學者ニシテ眞宗ノ學ハ哲學上講究スヘカラルモ
ノナリト云フモハ是レ眞宗ハ道理ニヨリテ論究スヘ
カラサルモ入ト自ラ許スニ異ナラス語ヲ換ヘテ之ヲ
言ヘハ眞宗ハ道理智力ノ宗教ニアラスト自ラ信スル
モノナリ果シテ然ラハ世ノ文明ハ道理ノ文明ニシテ
其進歩ノ目的ハ今日ノ世界ヲ一變シテ道理ノ世界ト
スルニアレハ眞宗ノ教義ハ文明ノ進歩ニ伴フ下能ハ
サルモノト云ハサルヘカラス是レ豈眞宗其者ノ性質
ナラシヤ且ツ余カ視ル所ニヨルニ眞宗ハ哲學上講究
スヘキ全然ノ眞理ヲ含有スルヲ知ル然ルニ此眞理ヲ

眞宗哲學序論

冥々ノ中ニ埋メ置キテ世間ヨリ眞宗ハ愚俗ノ宗教ノ
 ミ不道理ノ妄説ノミトノ批評ヲ來スモ更ニ顧ミサル
 カ如キハ是レ果シテ眞正ノ護法家ト稱スヘキヤ
 第五節 余ハ斯ク眞宗哲學講究ノ必要ヲ唱フルモ敢
 テ猥リニ哲學上ヨリ眞宗ヲ論評シテ其一家所立ノ教
 義ヲ破壊セントスルニアラス世ノ論者ハ學理上眞宗
 ヲ論究スルキハ聖道門ノ哲理ヲ直接ニ其宗門ノ上ニ
 應用シ一宗ノ骨髓タル原理ヲ破壊シ去リテ曰ク是レ
 眞宗ノ哲理ナリト即チ眞宗ノ阿彌陀佛ノ如キ西方極
 樂ノ如キ之ヲ眞如唯心ノ理ヲ以テ解釋セントスルモ

端緒論

ノ是レナリ余ガ眞宗ヲ論スルハ縱令哲學上ノ講究ニ
 ヨルモ決シテ此ノ如キ破壊主義ヲ取ルニアラス眞宗
 ナ其開立以來用ヒ來レル基礎ノ上ニ建設セントスル
 ニアリ今之ヲ論述スルニ當リ先ツ哲學一般ニ用フル
 原理ヲ論究シ之ヲ佛教ノ上ニ照合シ來リテ佛教總躰
 ノ原理ヲ論定シ是レヨリ淨土一門眞宗一家ノ原理ヲ
 審定セントス故ニ其順序左ノ三段ニ分ル

- (一) 哲學原理
- (二) 佛教原理
- (三) 眞宗原理

斯クシテ哲學上ノ原理ヲ論定シ終レハ真宗實際上ノ
組織ニ涉リ一二言ヲ加ヘテ此一篇ヲ結ハントス而シ
テ其原理論ノ如キモ他日真宗哲學本論ヲ起稿スル意
ヲレハ其方ニ餘地ヲ與ヘシガ爲メニ合ハ唯其要點ノ
ミヲ論述スルモ以テ知ルヘシ一節真宗一節ノ要點ヲ
撰述ヤ當カズ一節ノ撰述ハ一節ノ撰述ニ依リテ撰述
ニテ第二段ノ哲學原理論ニ依リテ撰述ニ依リテ撰述
ニテ其撰述第六節ノ哲學上ノ大難問ニ依リテ撰述
ニテ第七節ノ二様並存ニ依リテ撰述ニ依リテ撰述
ニテ第八節ノ此真理ノ證明法ニ依リテ撰述ニ依リテ撰述

第九節 哲學諸論之調解
第十節 宗教諸說之一致
第六節 南窓風清ク氣朗カナルニ處靜坐沈思ニ理想
ノ望遠鏡内ニ現見スル古今東西ノ哲學諸家ノ光景ヲ
觀察スルニ各一家ノ卓見ヲ出シ異論百端相爭フニ余
目ニ至リ未タ之ヲ統一セル學說アルヲ見ス是レ眞ニ
統一スヘカヲサルモノナルヤ將タ將來果シテ統一ス
ヘキ日アルヤ未タ判知スヘカヲスレ雖モ其異說ノ由
リヲ分ル、所以ヲ探求スルニ哲理ニ二様ノ相反スル
モノアリテ之ヲ合一スルヲ難キニ起源セサルハチシ

第六節 (哲學上ノ大難問)

其二様トハ理論實際ノ相反ナリ主觀客觀ノ相反ナリ
 思想感覺ノ相反ナリ有形無形ノ相反ナリ本軀現象ノ
 相反ナリ絶對相對ノ相反ナリ可知不可知ノ相反ナリ
 有限無限ノ相反ナリ單一雜多ノ相反ナリ平等差別ノ
 相反ナリ例ヘハ古來ノ學者カ理論ノ一方ヨリ論究シ
 テ其原理ヲ發見シ之ヲ實際ニ應用セシト欲シテ適合
 スヘカラサル所アルヲ見ルハ即チ理論實際ノ相反ニ
 アラスヤ政治ニテモ道德ニテモ宗教ニテモ理論上ヨ
 リ論定セルモノト實際上ニ應用セルモノト常ニ相合
 セサルハ皆此理ニヨル理論上論定スル所ノ神ト實際

上應用スル所ノ神ト一致セサルモ亦然リ實際上ノ神
 ハ理論ニ入りテ其形ヲ失ヒ理論上ノ神ハ實際ニ來リ
 テ其性ヲ變スルハ全ク理論實際ノ性質互ニ相反スル
 所以ヲ示スモノナリ之ヲ心理ノ上ニ考フルニ感覺上
 ノ境遇ト思想上ノ觀念ト一致セサル所アリテ感覺上
 ヲリ論スルモノハ客觀界ニ千差萬別ノ現象アルヲ見
 思想土ヨリ論スル者ハ主觀界ニ單一平等ノ理軀アル
 ナ想スルニ至ル而シテ客觀上ノ現象ハ彼我自他ノ相
 對ヨリ成リ我智力ニヨリテ識量スヘキモ平等無差別
 ノ本軀ニ至リテハ實ニ絶對無限ニシテ全ク人智ノ外

ニアリ即チ所謂不可知的ヲ其其中本躰論者ハ平等單
一ノ道理アルヲ知ルモ其理ヨリ萬差ノ諸象ヲ開發成
立スル所以ヲ解スル能ハス又現象論者ハ萬差ノ諸象
ノ實在並存ヲ知ルモ其裏面ニ一理ノ普遍スルアリテ
差別ヲ見サル所以ヲ解スル能ハス是レ哲學上古來ノ
大難關ニシテ如何ナル哲學者モ此ニ樣相反ノ理ヲ統
合スルニ苦ム所チリ若シ之ヲ理論實際ノ相反ノ上ニ
考フルハ其平等ノ理法ハ理論上ヨリ知ル所ニシテ
差別ノ現象ハ實際上ニ於テ見ル所チリ故ニ以上擧ク
ル所ノ種々ノ相反ハ要スルニ一對ノ相反ニ外ナラズ

古來經驗論ト本然論ノ相合セサル先天論ト後天論ノ
相合セサル主觀論ト客觀論ノ相合セサル直覺教ト功
利教ノ相合セサル有神說ト無神說ノ相合セサル進化
主義ト退化主義ノ相合セサル演繹論法ト歸納論法ノ
相合セサル宗教ト哲學ノ相合セサル之ヲ歸スルニ皆
其根本ノ原理並ズルモ一ニ樣相反ノ理ヲ有スルニ
ヨリ此相反ノ一致統合ヲ計ルニ獨リ古來ノ論題チリ
シシニナラス將來ノ疑問チリ哲學ノ難關ニ關スルチ
第七節 余ハ數年來ヨリ哲學ヲ專修シ夙ニ此疑問
ト大惑星アリテ哲學世界ノ中天ニ懸ルヲ見テ其講究

日尙ホ淺シト雖モ靜カニ理想ノ鏡面ヲ拂ヒ半夜天心
ノ澄ミ度ルニ際シ意ヲ觀測一方ニ注キ稍惑星ノ真相
ヲ發見スルヲ得タリ是レ實ニ哲學ノ難關ヲ開クヘキ
要鑰ナリト自ラ信スル所ナリ即チ平等差別ニ様並存
ノ理是レナリ從來ノ學者ハ其ニ様ノ中獨リ一方ノ理
ニヨリテ飽マテ他方ヲ會通シ去ラント試ミシヲ以テ
遂ニ一致統合ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハサリキ是レ
畢竟一方ノ偏見僻說ニ過キザルナリ已ニニ様並存ス
ル以上ハ一方ヲ以テ他方ヲ會通シ去ル能ハザルハ當
然ノ理ニシテ毫モ怪ムニ足ラス又古來ノ學者飽マテ

一方ニヨリテ其理ヲ貫徹セント欲シテ未タ一人ノ其
目的ヲ達セザリシハ即チニ様並存ノ理ヲ證明セルモ
ノニ外ナラス余ハ是ニ於テニ様並存ノ哲學上ノ眞理
ナルヲ知ル然ルニ古來ノ學者カニ様並存ヲ許サ、リ
シハ眞理ニニ途ヲキコヲ信セシニヨル余モ眞理ニニ
致チキヲ信スルモノナレニニ様並存ノ理ハ決シテ眞
理其躰ニニ様アルヲ云フニアラス一躰ノ眞理ニシテ
ニ様ノ道理ヲ具有スルヲ云フ恰モ一物ニ表裏兩面ヲ
具有スルカ如シ表裏兩面アルハ其躰ニ様アルニヨル
ニアラス一躰ノ物ニシテ唯其外面ニニ様ヲ示スノミ

今哲理モ之以下同一ノ關係ヲ有シ表面ニ差別ノ現象
ヲ示シ裏面ニ平等ノ理法ヲ具シ而シテ其軀同一ナリ
之ヲ或ハ一理萬象ヲ離レズ萬象一理ヲ離レズト云ヒ
或ハ平等差別ヲ離レズ差別平等ヲ離レズト云フ其意
一軀ニシテ兩面ヲ具シ兩面ニシテ一軀ニ依ルヲ義ト
ス故ニ或ハ此關係ヲ一ニシテ同時ニ三ナリニシテ
同時ニ一ナリト云フモ可ナリ此一軀兩面ノ關係ハ實
ニ哲理ノ極致ニシテ諸法ノ至理ナリ古來哲學上ノ相
反問題ノ難關ハ一タニ此理ニ照合シ來レハ忽チ會通
シ去ルヲ得ヘシ是以實ニ哲學界ノ關門ヲ通過スヘ

キ鑑札ト名クルモ不當ノ稱ニアラサルナリ
第八節 此鑑札ヲ證明スル方法ニ三様アリ其一ハ事
實ノ上ニ考フル法ニシテ之ヲ歸納的若クハ後天的證
明法ト云フ其二ハ理論ノ上ニ考フル法ニシテ之ヲ演
繹的若クハ先天的證明法ト云フ先ツ後天的證明法ニ
ヨルニ人類ニ老少男女彼我自他ノ差別アルモ若シ其
人類ノ人類タル理法ニ至リテハ唯平等ノ一理アルヲ
見ルハ又人類ト禽獸草木ヲ較スルニ其間畫然タル
區域アルモ生物ノ生物タル理法ニ至リテハ人獸共有
動植一致ノ平等ノ一理存スルヲ見ルハ更ニ日月星

辰山川土石ヲ較スルモ同一ノ關係ノ其間ニ存スルヲ見ル而シテ此差別平等ノ二者共ニ一物一類ノ上ニ並存スル一ハ毫モ表裏兩面ノ一物躰ノ上ニ存立スルニ異チラス果シテ然ラハ差別ノ現象獨リ實ニシテ平等ノ理法全ク虛ナルカ平等ノ理法獨リ眞ニシテ差別ノ現象全ク妄ナルカ二者中孰レチ取ルモ其關係ヲ說示スル一難シ是レ畢竟二様並存一躰兩面ノ眞理ヲ證明スルモノニアラスシテ何ソヤ是ニ由テ之ヲ觀ルニ一躰兩面ノ眞理ハ實ニ宇宙ノ大法ニシテ萬有ノ通則ナルコト明カチリ次ニ先天的證明法ニヨルニ人智ハ彼我

自他ノ差別ヨリ成リ右チ知ルハ左アルニヨリ温チ知ルハ冷アルニヨリ富貴チ知ルハ貧賤アルニヨル之ヲ相對ノ智識ト云フ人智果シテ相對ナラハ相對差別ノ境遇其者チ知ルニハ之レニ相對スル絶對平等ノ本躰チカルヘカラス即チ我智力ガ相對ノ性質チ有シナガラ相對ノ外ニ絶對チ知ルコトチ得ルハ絶對ハ相對ニ對シ相對ハ絶對ニ對シ二者並存相對ナルニヨル他語ニテ之チ言ヘハ平等ハ差別ニ對シ差別ハ平等ニ對シ二者ノ間ニオソツカラ相對差別アリテ並存兩立スルニヨルモノナリ故ニ絶對相對ノ二法即チ平等差別ノ二

様ハ必ス並存兩立セサルヘカラス而シテ此二者兩立
 スルモ其躰別ナルニアラス若シ果シテ其躰別物ナル
 キハ我人差別相對ノ境遇ニアリテ絕對平等ノ本躰ヲ
 知量スヘキ道理アルヘカラス然ルニ我人ハ差別ノ境
 遇ニアリテ平等ノ理法ヲ知り相對ノ智力ヲ以テ絕對
 ノ本躰ヲ識ルハ平等ハ差別ヲ離レズ差別ハ平等ヲ離
 レズ相對絕對ニ様同躰ナル所以ヲ證見スルモノナリ
 故ニニ様並存一躰兩面ノ眞理ハ實ニ諸學諸法ノ原理
 原則ナルヲ豈疑ヲ容レンヤ
 第九節 以上先天後天ノ二法ニヨリテ哲理ニニ様ア

ル所以ヲ知レハ此理ニヨリテ古來哲學諸家ノ異說ヲ
 統合調解スヘキ所以ヲ一言セサルヘカラス例ヘハ此
 ニ甲論起レハ必ス之ニ反スル乙論起リ此ニ甲乙兩論
 ナ合シタル丙論起レハ亦必ス之ニ反スル丁論起ルヘ
 シ是レ即チ哲理ニニ様アルニヨル而シテ哲學上ノ爭
 論ハ常ニ此相反ノ點ノ永ク一致スヘカラサルモソト
 偏信スルヲ以テ調和シ難キナリ若シ其二様相反ノ理
 ヲ一躰兩面ノ關係ニヨリテ成リ甲論ノ裏ニハ乙論ア
 リ丙論ノ裏ニハ丁論アリテ此ニ論ハ一理一躰ノ上ニ
 成立セル所以ヲ知ルニ至レハ容易ク和解スルヲ得

ヘシ今之ヲ男女同權論ノ上ニ考フルニ同權獨リ眞理
ニアラス異權獨リ眞理ニアラス同權ノ裏ニハ異權ヲ
具シ異權ノ裏ニハ同權ヲ存シ二論其致一ナルヲ知
ルモノ是レ眞理ナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ平等ノ裏
ニハ差別アリ差別ノ裏ニハ平等アリ二者其躰一ナリ
ト知ルモノ是レ眞理ナリ此ノ如ク二様相反ノ點ヨリ
其一躰ノ理ニ躰達スル之中ト云フ相反ノ一面ヲ知
リテ他面ヲ知ラサル之ヲ偏ト云フ故ニ眞理ハ中ヲ得
ルニアリ其中ニ亦絶對相對ノ二種アリ即チ人智ノ進
歩ニ從フテ其位置ヲ變スルハ相對ノ中ナリ例ヘハ甲

乙ノ間ニ存スル中、一步進ンテ丙丁ノ間ニ存スルニ至
ルガ如キ是レナリ若シ相對ノ中進ミ窮リテ絶對ノ中
ニ達スレハ復々變遷スルコトナシ縱令又相對ノ中ハ變
遷スト云フモ若シ中ノ中タル所以ニ至リテハ始終一
定シテ常ニ變遷スルコトナシ是レ相對ノ中ニ絶對ノ中
ヲ具有スルニヨル先キニ所謂相對絶對同躰一理ナル
所以ナリ其一理ナル所以亦之ヲ中ト云フ中ノ上ニモ
中アリ其中ノ上ニモ更ニ他ノ中アリテ是レヨリ以上
際限アルヘカラスト雖モ中ノ中タル所以、中ノ眞理タ
ル所以ニ至リテハ前後唯一アルノミ是レ理論上ノ事

ノミ若シ實際上ニアリテ考フルキハ中モ必スシモ中
ヲ得ルニアラス偏モ却テ中ヲ得ルコアリ例ハ世論
異權ノ一方ニ偏スルキハ之ヲシテ其中ヲ得セシムル
ハ同權説ヲ主唱スルニアリ又世論同權ノ一方ニ偏ス
ルキハ異權ヲ唱ヘテ始メテ其中ヲ得ヘシ蓋シ世論常
ニ權衡中正ヲ得ルモノニアラサレバ政教ヲ當時ニ布
カント欲スルモノハ世論ヲ右ニ偏スルヲ見レハ左ヲ
取リ左ニ傾クヲ見レハ右ヲ擇フコアルモ其目的ハ常
ニ中ヲ維持スルニ外ナラス故ニ理論上ニアリテハ差
別ニ偏セズ平等ニ偏セズルハ中ヲ中タル所以ナレキ

時宜ニ自ラテハ平等却テ眞理ナルコトアリ差別却テ眞
理ナルコトアルヲ知ラサレハカラス而シテ之レト同時
ニ差別以テ裏ニ平等アリ平等以テ裏ニ差別アルコト忘ル
ヘカラス之ヲ哲理以テ妙致トス蓋シ高妙ナル理想ノ望
遠鏡ニヨルニアラサレバ其眞相ヲ感見スルコト能ハサ
ルヲ以テ哲學者ノ第一ノ要義トシテ人皆自ラテハ人皆
第十節至此ノ如ク二様並存一躰兩面ノ眞理ハ實ニ哲
學上ノ膠漆ニ以テ東西ノ諸説ヲ接合スルコトヲ得ルコ
トナラス又宗教上ノ剪刀ニシテ古今ノ爭論ヲ裁斷ス
ルヲ得ヘシ抑モ宗教ハ古來種々ノ宗派アリテ各其旨

意ヲ異ニスルヲ以テ之ニ與フル義解一定セスト雖モ
蓋シ世ニ人智ヲ標準起點ト定メテ研究スル者ト人智
以外ノ絶對無限不可知の本躰若クハ理性ヲ標準ト
シテ論定スルモノトノ二種アリ其一ハ學術ニシテ其
二ハ宗教ナリ故ニ宗教ノ性質ハ人智以外ヨリ人智以
内ニ及ホスモノナレモ全ク人智ヲ以テ論究スヘカラ
サル者ニアラス唯人智ハ其躰ノ一面ヲ知ルノミニテ
他ノ一面ハ人智外ノ講究ヲ待タサルヘカラス故ニ古
來宗教ニ自然顯示ノ二教ヲ分チ或ハ智力情感ノ二種
ヲ分ツ自然教ハ人智自然ノ發達ニ伴フテ起ルモノナ

レハ道理ニヨリテ講究スヘキモ顯示教ハ聖賢神佛ノ
啓示ニヨリテ起ルモノナレハ道理以外ニ屬スルコト多
シトス又智力的宗教ハ道理的宗教ヲ義トシ情感的宗
教ハ想像的宗教ヲ義トスレハ其一ハ道理ニヨリテ講
究スヘク其二ハ道理ニヨリテ講究スヘカラサルモノ
トス是ヲ以テ古來此二教相反ノ間ニ爭論ヲ起シ其調
解ノ何レノ日ニ成ルヲ知ラサルナリ然レモ若シ前ニ
舉クル所ノ二様一躰ノ真理ニヨリテ進行スルハ數
千年來困難ヲ感シタル險道モ容易ク通過スルコトヲ得
ヘシ先ツ智力的宗教ハ平等ノ道理ニ基キ情感的宗教

ハ差別ノ境遇ニヨリテ組織セル者ナリハ二者一致合
同ナル可能ハサル者ノ如シト雖モ若シ平等差別其理
ニナル所以ヲ知ルモハ此二教ノ相離シタル所以並一
方獨リ眞理ニシテ他方全ク非眞理ナルニアラサル所
以ヲ知ルベシ又自然教ハ相對ノ人智ニヨリテ成リ顯
示教ハ絕對ノ神智ニ基キテ起ルモナレハ二者全ク
相反シタル如シト雖モ絕對ハ相對ヲ離レズ相對
ハ絕對ヲ離レテ道理ニヨリテ其相反ノ點ニ於テ理
ニ出ツル所以ヲ知ルベシ然リ而テ此二様並存一躰兩
面ノ關係ノ眞理ナル所以ヲ知レハ完全ノ宗教ニ必ス

自然顯示若クハ智力情感ノニ對相反ノ兩面ヲ兼有並
存スルモノナラサルベカラサル所以ヲ知ルベシ即チ
道理ニテ究メ盡クスベカラサル所ヲ以テ啓示ヲ以テ
之ヲ補正情感ニテ信シ難キ所ヲ以テハ智力ニテ之ヲ助
ケ兩者相待チテ始メテ完全ノ宗教ヲ現ルベシ若シ其
一方ヲ有シテ他方ヲ有セサルモノハ偏頗不完ノ宗教
タルヲ免レサルナリ之ヲ非眞理ノ宗教トス何者兩者
兼有ノ眞理ナルヲ知レハ一面偏有ノ眞理ニ反スレハ
ナリ是レ余ガ曾テ佛教耶蘇教以上ニ眞非ノ裁決ヲ下
シ佛教ハ兩面兼有ノ宗教ニシテ耶蘇教ハ一面偏有ノ

宗教ナリト審判スルト同時ニ佛教ハ眞理ニシテ耶蘇
教ハ非眞理ナリト論定シタル所以ナリ然リ而シテ余
カ先節ニ述フルガ如ク一面偏有モ時宜ニヨリテハ眞
理トナルコトナキニアラス即チ世教ノ權衡ヲ失フニ當
リテハ智力的宗教ノ適スルコトアリ情感的宗教ノ適ス
ルコトアリ然レモ耶蘇教ノ如キ本來一面偏有ヲ以テ組
織セル宗教ハ時宜ニ應合スルコト能ハサルノミナラス
情感ノ裏面ニ智力アリ啓示ノ裏面ニ道理アル所以チ
對照スルコト能ハサルモノナレハ斷言シテ眞理ノ範圍
内ニ入ルヘカラス今佛教ニアリテハ兩面兼有ト同時

ニ時宜ニ應合シテ其一方ヲ取り又其裏面ニ存スルモ
ノヲ對照並存シテ其中ヲ失ハサルコトヲ得ルヲ以テ宗
教中ノ最モ完全ナルモノト謂フヘシ其果シテ然ルヤ
否ハ余ガ次段ニ述ヘントスル論題ナリ

第三段 佛教原理論

第十一節 佛教總說

第十二節 有空二門ノ大意

第十三節 中道ノ大意

第十四節 理論宗ノ批評

第十五節 實際宗ノ起原

第十一節 茫茫タル哲學海上、一夕風靜カニ波穩カナ
 ルニ會シ思想ノ大船ニ駕シ論理ノ長帆ヲ掲ケ左進右
 行スルノ際、遙カニ一點ノ微光ヲ烟波深キ處ニ見ルヲ
 得タリ是レ即チ佛教ノ陸端ナル燈臺ヨリ發シタル眞
 理ノ光輝ナリ、錨ヲ投シテ上陸スレハ土地廣クシテ住
 民多ク實ニ宗教世界無二ノ大國ナリ、今余カ是レヨリ
 論述スル所ノモノハ即チ此大國ノ案内記ナリ、先ツ其
 國內ノ區域都邑驛路ノ名稱順序ヲ説明スヘシ、凡ソ佛
 教ハ其説ノ深淺高下ニ應シテ小乘大乘ノ三部ニ分レ

大乘亦權、大乘實、大乘ノ三段ニ分ル而シテ、小乘ヲ有門
 トシ、權大乘ヲ空門トシ、實大乘ヲ中道トス、其有トハ相
 對差別ノ現象ノ成立ヲ云ヒ、其空トハ絕對平等ノ無現
 象ノ狀態ヲ云ヒ、其中道トハ差別ノ中ニ平等ヲ存シ平
 等ノ中ニ差別ヲ存シ二者ノ中ヲ得ルヲ云フ、即チ余カ
 先キニ所謂中是レナリ、此中ヲ解シテ、非有非空亦有亦
 空ノ中道ト云フ其意、中道トハ有現象ノ有ニアラス無
 現象ノ空ニアラス差別平等相對絕對並立兼有ノ中道
 ナ義トス、是レ所謂二様並存一躰兩面ノ關係ヲ示スモ
 ノナリ、其關係ヲ示スニ種々ノ語句アリテ、或ハ眞如即

萬法、萬法即真如ト云ヒ或ハ相即不二融通無礙ト云フ
眞如トハ平等ノ理躰ヲ義トシ萬法トハ差別ノ現象ヲ
義トス其理躰ハ之ヲ理性ト名ケ其現象ハ之ヲ事相ト
名ケ理躰ト現象ノ同躰不離ナル關係ヲ示シテ眞如即
萬法、萬法即眞如ト云ヒ理躰ノ中ニ現象ヲ存シ現象ノ
中ニ理躰ヲ存シテ二者相通自在ナル狀態ヲ示シテ事
理無礙ト云フ是レ皆非有非空亦有亦空ノ中道ノ性質
作用ヲ表現シタルモノナリ蓋シ佛教ノ眞理ハ此有空
中三段ノ道理ノ外ニ出デス其中ニツイテ中道ヲ眞實
トシ有空ヲ方便トス故ニ有門ノ小乘ハ方便ナリ空門

ノ權大乘モ亦方便ナリ中道ノ實大乘獨リ眞實ナリ然
レモ有少裏ニ空アリ空ノ裏ニ有アリ有空ノ裏ニ中道
アルヲ以テ其方便ハ全ク眞實ヲ離レタル方便ニアラ
ズ故ニ方便即チ眞實ナリト云フ是レ理論上ノ事ナリ
若シ之ヲ實際ニ徵スルキハ人ノ性質ト世ノ機運トニ
應シテ有空ノ方便却テ中道ノ眞實ナルコトアリ例ヘハ
時弊差別ノ有ニ偏スルキハ之ヲ正スニ無差別ノ空ヲ
以テセサルヘカラサルカ如シ蓋シ一佛教中ニ小乘ア
リ大乘アリ有門アリ空門アリ諸說並存スルハ世ト人
トノ事情ニ應シテ中道ノ權衡正平ヲ保持セントスル

ノ意ニ出テタルヤ疑ナシ以上ノ有空中三段ノ道理ニ
ヨリテ組織シタル宗旨ハ俱舍宗、法相宗、天台宗等ナリ
是レ皆理論宗ナレハ宜ク之ヲ智力的宗教若シクハ道
理宗ト名クヘシ之ニ對シテ實際宗アリ即チ淨土宗、眞
宗、禪宗、日蓮宗等是レナリ余ハ之ヲ顯正活論ニ於テ通
宗ト稱セリ其中淨土宗、眞宗ハ之ヲ淨土門ト名ク之ニ
對シテ自他ノ諸宗ハ總シテ聖道門ト名ク余ハ此三者
ヲ實際的情感宗、實際的智力宗ト稱セントス畢竟スル
ニ佛教中ニ此二門兼備スルハ其完全ノ宗教ナル所以
ニシテニ様並存ノ眞理ニ適合スル所以ナリ

第十二節 此ノ如ク論定シテ是レヨリ理論宗ノ有空中
中三段ノ諸宗ニツイテ其大要ヲ略述スヘシ先ツ小乘
俱舍宗ハ有門ニシテ現象差別ノ境遇ニアリテ組織シ
タル宗旨ナリ然レモ若シ之ヲ世間ノ彼我差別ヲ妄見
ニ比スレハ一步進ミタル差別論ニシテ通俗ノ妄見ヲ
破リテ眞理ノ一部分ヲ示シタルモノナリ凡ソ世間ノ
妄見ハ人々各々ノ差別ヲ固執シ千萬無量ノ差別ヲ偏
信スルモノナレモ俱舍宗ニ於テハ七十五種ノ原理ヲ
立テ、千萬無量ノ差別ハ此原理ノ外ニ出テストナス
之ヲ七十五法ト云フ此諸法ヲ大ニ別チテ有爲無爲ノ

二法トナス有爲法トハ變遷生滅アルモノニ名ケ無爲法トハ其反對ニ名ク此二種ノ諸法共ニ其躰各恒存實在セルモノナリト説キ來リテ所謂法躰恒有説ヲ論定ス故ニ其宗ハ猶ホ七十五法ノ差別ヲ立テ現象ノ成立ヲ許スモノナレハ之ヲ有門ト名クルナリ若シ進テ權大乘ニ入レハ法相宗ノ唯識論ノ如キハ此差別ヲ空無ニ歸シテ外界ノ現象ハ識心ノ作用ニ出ツルコトヲ示ス之ヲ唯識所變ト云フ即チ識心ノ作用ヲ離レテ一物一現象ノ實在恒存スルコトナシトナス是レ其空門ノ名アル所以ナリ是レヨリ更ニ一步ヲ進メテ實大乘ニ入り

其已ニ經過セル境遇ヲ回想スレハ小乘ハ有ニ偏シ權大乘ハ空ニ偏スルヲ見ル故ニ實大乘ニアリテハ其二者ノ中ヲ執リテ中道説ヲ唱フルニ至ル是レ實ニ佛敎國ノ都城ナリ今此中道説ヲ論スルニ先チテ更ニ一言ヲ要スルコトアリ即チ法相宗ノ空門猶ホ差別ノ見ヲ脱セサルコト是レナリ凡ソ其宗ニアリテハ百法即チ百種ノ原理ヲ立テ、唯識所變ノ理ヲ示スモノナレトモ其百法中ノ有爲法即チ變遷生滅ヲ有スル諸法ハ識心中ニ阿賴耶識ト名クル一種ノ心躰アリテ其中ニ含藏セル種子ノ開發ニヨリテ現立スルモノナレハ其心躰ヲ離

レテ一法ノ存スルコトナシト云フモ若シ變遷生滅ヲ有
セサル無爲法ニ入レハ別ニ眞如ノ本體アリテ諸法ハ
此上ニ依立スルモノナリト云フ而シテ眞如ト阿頼耶
識トハ其體一ニシテ眞如ハ阿頼耶識ノ依立スル本體
ナリト説クモ有爲ノ諸法ハ眞如ヨリ開現スルコトヲ説
カス之ヲ眞如凝然不作諸法ト云フ是ニ由テ之ヲ觀ル
ニ法相宗ハ俱舍宗ノ差別論ヲ一變シテ有爲法ノ差別
ヲ空無ニ歸シタルモ猶ホ有爲ト無爲ノ間ニ差別ヲ存
シテ眞如開發ノ理ヲ説カサレハ是レ又差別論ノ一種
タルヲ免レズ然ルニ全ク此差別ヲ絶無ニ歸シタルモ

ノハ別ニ三論宗アリ是レ空門中ノ空門ナリ此空ニ有
テ兼説シテ正シク其中ヲ立テタルモノハ中道ノ諸宗
ニ限ル
第十三節 中道ノ主義ヲ唱フルモノハ先キニ天台宗
ナリト云ヒタルモ其他華嚴眞言等モ皆中道宗ナリ今
法相宗ノ差別論ノ一變シテ中道論トナリタル順序ニ
ツイテ考フルハ先ツ起信論ノ説ヲ略言セサルヘカ
ラス起信論ハ實大乘ニ入ルノ關門ニシテ眞如開發ノ
理ヲ啓示シタルモノナリ即チ法相宗ハ阿頼耶識ニツ
イテ其作用ヲ論シテ未タ眞如ノ作用ヲ説カサレ起

信論ハ直チニ眞如自躰ノ上ニ其作用ヲ説キテ一切有
爲無爲ノ諸法ハ眞如開發ニ外ナラサルヲ證明セリ
此眞如開發説ハ實ニ佛教ノ主眼ニシテ其耶蘇教ト異
ナル要點ナリ而シテ其論猶ホ未ダ全ク差別ノ見ヲ脱
スル能ハス何者眞如開發ノ前後ニ差別ヲ存シテ開發
以前ト以後ト一致セサル所アリ是レ古來起信ノ難問
ト稱シテ學者ノ常ニ苦ム所ナリ即チ其疑問ハ開發以
前ハ平等ノ一理アルノミニテ開發以後ニ差別ノ萬境
ヲ現スルハ是レ一ヨリ偶然萬ヲ生シタルモノナリ其
理解スヘカラスト云フモノ是レナリ此點ハ獨リ佛教

中ノ疑問ナルノミナラス諸哲學ノ疑問ナリ而シテ其
疑問ハ開發ノ上ニ前後ノ差別ヲ立ツルヨリ起ル若シ
其差別ヲ除キ去レハ其疑點モ亦同時ニ滅スヘシ是レ
天台宗ノ理具説ノ起ル所以ナリ理具トハ平等ノ理性
ニ本來差別ノ事相ヲ具有スルヲ云フ之ヲ躰性本具説
或ハ因心本具説ト名ク其意一理開發シテ萬境ヲ現ス
ルモ萬境本來無ナルニアラス一理ニ具有シテ前後併
存スルニヨルヲ云フ是レ畢竟天台ニテハ有ラユル差
別ヲ盡ク除キ去リテ其極無差別中ニ差別ヲ見ルニ至
リ一理萬境三様並存ヲ唱フルニ外ナラス故ニ天台ノ

眞宗哲學序論

中道ハ空中ニ有テ現シ平等中ニ差別ヲ存スル論ナリ
 之ヲ空假中三諦ノ法門ト名ク其假トハ空中ニ有テ現
 スルヲ云フ此理ヲ推シテ先キニ所謂相即不二融通無
 礙ノ論ヲ了解スヘシ是レ實ニ中道ノ極致至理ナリ是
 ニ至リテ余カ先キニ述フル所ノ二様並存一躰兩面ノ
 關係ヲ全ク一大佛教中ニ於テ完成スルヲ見タリ故ニ
 其說ハ完全ノ眞理ヲ有スルモノト斷定シテ可ナリ
 第十四節 天台以上ニ至リテハ華嚴宗アリ眞言宗ア
 ルモ其說ハ天台ノ理論ヲ差別現象ノ上ニ應用シタル
 者ニ外ナラス蓋シ天台ハ平等論ノ最上ニ達シタルモ

哲學原理論

クニシテ平等差別ノ中道ヲ說クモ其實平等ヲ本トシ
 差別ヲ末トスル傾向アルヲ以テ自然反動ノ勢差別ノ
 上ニ平等ヲ立ツル說起ラサルヲ得ス即チ其平等ノ理
 ヲ直チニ差別ノ一事一物ノ上ニ適用シテ事々物々ノ
 融通自在ナルヲ說キタルモノハ華嚴宗ナリ之ヲ事
 々無礙論ト名ク又更ニ事々物々ノ方ヲ本トシテ平等
 ノ理ヲ說クニ至リタルモノハ眞言宗ナリ其宗ニ六大
 所成說アルモノ是レナリ然レモ此等ノ諸說ハ天台ノ
 論理ノ方向ヲ轉シタルモノニ過キサレハ余ハ天台ヲ
 以テ理論ノ極點トス以上ハ理論宗ノ大要ナリ其論理

ノ順序ハ差別ヨリ平等ニ向テ進ミ平等ヨリ差別ニ向
テ出テ平等極マリテ差別ヲ生シ差別極リテ平等ヲ生
シ二者並存不離ノ關係ヲ證明セルモノナリ已ニ此ノ
如ク論理進達シテ中道ノ真理ナルヲ知レハ先キニ所
謂萬法即眞如眞如即萬法或ハ差別即平等平等即差別
ノ理ノ真理ナルヲ知ルヘシ若シ其眞理ナルヲ知シ
ハ我目前ノ事々物々其躰皆眞如ニシテ此世即チ眞如
世界ナルヲ了スヘシ果シテ然ラハ我人ハ勿論禽獸
草木山川日月ニ至ル迄皆眞如ノ理性即チ佛性ヲ具シ
此變化生滅ノ世界ハ正ク不生不滅ノ極樂世界ナラサ

ルヘカラス是レ中道宗ニ於テ我身即佛此土即極樂ト
唱フル所以ナリ之ヲ煩惱即菩提生死即涅槃ト云フ天
台ニテ國土山川悉皆成佛ヲ説クモ全ク此理ニ外ナラ
サルナリ
第十五節 因果シテ然ラハ我輩何ソ此世界ノ外ニ極樂
ヲ願フ我身ノ外ニ佛ヲ望マシヤ我人ハ生レナカラ此
身ノ儘ニテ即チ佛ナリト云フモノアルヘシ然ルニ天
台等ノ中道宗ハ理論ノ外ニ實際ヲ説キ來リテ我身即
佛トハ理論上ノトスニ實際上ニテハ我々ハ行ヲ修メ
善ヲ積ミテ始メテ佛トナルヘシト云フ故ニ實際上ニ

アリテハ中道宗モ俱舍法相等ノ非中道宗モ更ニ異ナ
ルコトナシ是レ理論宗ニ反對シテ實際宗ノ起リタル所
以ナリ實際宗中淨土諸宗モ日蓮宗モ皆天台ノ理論實
際ノ契合セサルヲ見テ起リ蓋シ天台宗ハ差別平等
ノ中道ヲ説キナカラ平等ノ上ニ理論ヲ立テタルヲ以
テ淨土諸宗ハ之ニ反シテ差別ノ上ニ理論ヲ立ツルニ
至リ又天台宗ハ平等ノ上ニ理論ヲ立テナカラ差別ノ
上ニ實際ヲ説キタルヲ以テ日蓮宗ハ平等ノ上ニ實際
ヲ説クニ至レリ次ニ禪宗ハ天台ヨリ出テタルモノニ
アラサルモ其理論ハ矢張中道ノ眞理ニ本キ三界唯一

心、心外無別法ナト、云ヘル原理ニ照シ我心ノ本躰即
チ眞如ノ理性ナレハ我人其本性ヲ觀見シテ成佛スヘ
キ所以ヲ説ケリ之ヲ見性成佛ノ法ト云フ此説ト淨土
諸宗ノ説トノ異同ハ禪宗ハ主觀界裏ニ成佛ノ道ヲ立
テ淨土諸宗ハ客觀界上ニ成佛ノ法ヲ立ツルノ點ニア
リ日蓮宗モ主觀上ノ説ニアラスシテ客觀上ノ説ナレ
ル其淨土門ニ異ナルハ客觀上ニ平等論ヲ立テ即身成
佛、此土極樂ノ説ヲ取ルニアリ然ルニ淨土門ハ客觀上
ニ差別論ヲ立テ、我身ノ外ニ佛アリ此土ノ外ニ極樂
アルコトヲ説ク是レ實際宗ノ各其主義ヲ異ニスル所以

ナリ而シテ淨土一門ノ説ハ真宗ノ原理トシテ次段ニ於テ證明セシトス

第四段 真宗原理論第一

第十六節 真宗原理ノ分類

第十七節 天台ノ平等論

第十八節 我人ノ知見

第十九節 天台淨土理論ノ相反

第二十節 天台淨土實際ノ相反

第二十一節 阿彌陀佛ノ性質

第三十二節 阿彌陀佛ノ證明

第三十三節 他力成佛ノ理

第十六節 佛教ノ大陸ニ入りテ其山河ノ大勢ヲ望見

スルニ俱舍法相ノ山脈ハ廣ク有空二門ノ境遇ニ跨リ

天台華嚴ノ高嶺ハ遙ニ真如實相ノ中天ニ聳ヘ其妙其

美一望ノ下實ニ人ヲシテ仰嘆ニ堪ヘサラシム然レモ

世間ヨク其山巔ニ登リ其眞景ニ接シタルモノ果シテ

幾人カアル老弱婦女子ノ輩ハ言フニ及ハス強壯健全

ノモノト雖モ山至テ高フシテ道極メテ險ナレハ容易

ニ攀テ登ルヘカラズ然ルニ淨土一門ハ恰モ長江大河

ノ如ク遠ク源ヲ天台中道ノ高嶺ニ發シ有空二門ノ幽谷ヲ過キ流レテ曠原平野ニ沃ギ村落到ル處其恩澤ニ潤ハサルハナシ殊ニ眞宗ニ至リテハ如何ナル愚夫愚婦モ其慈水ニ浴サ、ルハナシ其世間ヲ益スルヤ實ニ大ナリト謂フヘシ今謹テ其教ノ原理トスルモノヲ考フルニ法相天台等ノ聖道諸宗ノ原理ト全ク相反スルモノ、如シト雖モ其實平等差別中道ノ眞理ニ外ナラス先ツ聖道淨土ノ異點ヲ擧クレハ聖道門ハ我身即佛此土即極樂ヲ唱フルヲ以テ此土ニアリテ成佛スルヲ説キ淨土門ハ西方ノ極樂西方ノ阿彌陀佛ヲ立ツル

ヲ以テ未來彼土ニ到リテ成佛スルヲ説ク又聖道門ハ自力ノ修行ナレハ難行道ナリ淨土門ハ他力ニ依憑スルモノナレハ易行道ナリ更ニ淨土諸宗ノ原理ノ聖道諸宗ニ異ナル要點ヲ擧クレハ左ノ如シ其中第一條ハ純正哲學上ヨリ判定シ第二條ハ心理學上ヨリ觀察シ第三條ハ宗教學上ヨリ論評シタルモノナリ

- (第一) 平等論ヲ取ラスシテ差別論ヲ取ル(純正哲學上)
- (第二) 智力ニヨラスシテ情感ニヨル(心理學上)
- (第三) 道理ヲ本トセスシテ啓示ヲ本トスル(宗教)

學上

此三條中第一條ハ要點中ノ要點ニシテ他ノ二條ハ之
 ノニ附屬スルモノニ過キス即チ第一條ノ純正哲學上
 ヨリ論定セル原理ハ第二條第三條ヲ貫通シテ淨土一
 門ノ教義ヲ組織セルモノナリ其他淨土門ハ理論ヲ去
 リテ實際ヲ取り主觀論ヲ説カズシテ客觀論ヲ取りタ
 ル等ノ諸點アレモ皆第一條ノ下ニ概括スルヲ得ルナ
 リ即チ余カ第十一節ニ理論宗實際宗ヲ分チテ淨土宗
 及眞宗ハ實際宗ナリト云ヒタルハ其宗ノ實際ヲ目的
 トスルニヨル實際トハ彼我差別ノ境遇ニ於テ其事情

ニ適應スル教義ヲ立ツルヲ云フ之ニ反シテ天台ノ如
 キハ國土山川悉皆成佛ヲ唱フルハ平等一方ノ理論ニ
 ヨリテ立宗シタルモノト云ハサルハカラス而シテ淨
 土門ノ如キ實際宗中ニ尙ホ理論ト實際トノ別アリテ
 天台等ト表裏相反スル點アルコトハ第二十節ニ至リテ
 知ルヘシ又純正哲學上聖道淨土ノ別ハ主觀客觀ヲ以
 テ配スルコトヲ得ヘシ聖道門ハ三界唯心心外無法等ノ
 原理ニヨリテ主觀上ヨリ平等絶對ノ理躰ニ到達スル
 道ナリ淨土門ハ西方淨土十劫彌陀ヲ立テ、客觀的差
 別相對ノ上ニ成佛ノ法ヲ説キタル道ナリ故ニ實際理

論ヲ以テ分ツモ主觀客觀ヲ以テ分ツモ共ニ平等差別ノ原理ニ外ナラサレハ余ハ此ニ平等差別ノ原理ヲ設ケテ他ヲ略スルナリ此ノ如ク淨土門ノ原理ハ聖道門ト水火相容レサルノ勢ナルモ其間ニ亦一理脈ノ貫通スルアリテ一佛ノ金口ニ出テタル說ナルヲ證スヘシ其一理脈トハ他ニアラス有空不離融通無礙ノ中道ニシテ二様並存一躰兩面ノ眞理ヲ云フナリ然リ而シテ淨土門ハ天台ト密着ナル關係ヲ有シ其原理ハ天台ノ裏面ヨリ分レタルモノナレハ一々之レト對照シテ說カサルヲ得ス余ハ曾テ天台ヲ評シテ是レ淨土日蓮

ノ二道ノ相分ル、追分ニシテ其表面ヨリ分レタル道ハ日蓮宗ニ達シ裏面ヨリ分レタル道ハ淨土門ニ達スト云ヘリ
第十七節 先ツ第一條ノ意ヲ説明スルニハ天台ハ平等論ナルヲ略言セサル可ラス先キニ已ニ論セシガ如ク小乗ハ差別論ニシテ萬有ノ成立ヲ說キ法相モ起信モ猶ホ差別ノ一部分ヲ存シテ未タ全ク平等ノ理ニ躰達セズ然ルニ天台ニ至リテハ平等論ノ最上ニ達シテ人獸草木ハ勿論國土山川ニ至ル迄悉皆成佛スヘシト說クニ至ル是レ平等論ノ極端ト云ハサル可ラス然

リ而シテ其說敢テ差別論ヲ排スルニアラス已ニ眞如
即萬法ト説キ來リテ差別ト平等ノ同躰不離ナル所以
ヲ示セリ果シテ然ラハ天台ノ本意ハ平等差別ノ中道
ニアリナカラ其理論ハ稍平等ニ偏シタル嫌ナキ能ハ
ズ是レ淨土門ノ之ニ對シテ差別論ヲ取ルニ至リタル
所以ナリ即チ天台ハ我ト佛トノ一躰ナルヲ説キ此土
ト極樂トノ同處ナルヲ説キテ其裏面ニ異躰差別ノ理
ノ存スルヲ示サ、ルヲ以テ淨土門ハ我ト佛トノ異躰
ヲ説キ此土ト極樂トノ別界ナル所以ヲ示ス是レ余ガ
淨土門ハ天台ノ裏面ヨリ分レタリト云フ所以ナリ而

シテ此二者ノ關係ハ要スルニ理論ヲ主トスルト實際
ヲ主トスルトニアリ天台ハ理論ヲ主トスルヲ以テ萬
法即眞如生死即涅槃ノ原理ニヨリテ我身即佛山川成
佛ヲ説クモ若シ之ヲ實際ニ考フルニ我身決シテ佛ニ
アラス山川決シテ成佛スルヲ能ハサルハ明カナリ是
ヲ以テ淨土門ハ此レヨリ西方十萬億土ヲ隔テ、極樂
淨土ノアルヲ説キ其土ニ阿彌陀ト名クル佛躰ノ存
在スルヲ説ク然ルニ此點ハ人々大ニ怪ム所ニシテ
何故ニ一佛教中ノ説ニシテ佛ト極樂トニ此ノ如ク遠
近ノ相違アルヤ此疑問ニ答フルニハ人ト人トノ關係

ニツイテ一例ヲ示スヘシ例ヘハ此ニ甲乙二人アリ其
二人ハ容貌モ年齢モ共ニ異ナレハ各差別アリト云フ
コヲ得ルト同時ニ其二人ハ共ニ人類ニシテ人ノ人々
ル同一ノ性質ヲ有スルヲ以テ同一平等ナリト云フコ
ヲ得ヘシ蓋シ人ト人トノ關係ニモ平等ト差別トノ二
様ノ理ヲ具スルニヨリテ平等ノ一面ヨリ見レハ甲乙
二人其別ナク差別ノ一面ヨリ見レハ其別アルナリ若
シ又我ト堯舜トヲ較スルニ我モ人ナリ堯舜モ人ナレ
ハ我即チ堯舜ナリト謂フコヲ得ルハ平等上ノ論ナリ
若シ差別上ヨリ之ヲ見レハ我ハ今日ノ人ナリ堯舜ハ

我チ距ルコ四千歳ノ古代ノ人ナリト云ハサルヘカラ
ス今淨土ニ遠近ノ別アリ佛ニ彼我ノ別アルモ同一理
ニシテ差別ノ表面ヨリ見ルト平等ノ裏面ヨリ論スル
トノ異同アルニヨルナリ
第十八節 今更ニ此關係ヲ明カニセント欲セハ佛教
ニテハ極樂モ地獄モ我人ノ知見ニ應シテ異同アリト
唱フル所以ヲ知ラサルヘカラス此世界ハ本來眞如開
發ノ世界ナレハ此儘不生不滅安樂幸福ノ極樂界ナラ
サルヘカラス然ルニ我人之ヲ見テ極樂界ト信スルコ
能ハサルハ我感覺ト智識トハ其程度尙ホ低フシテ之

ヲ極樂ト見ルノ力ヲ有セサルニヨル蓋シ此世界ハ我
感覺上ノ現象ナレハ不完不明ナル感覺ヲ以テ之ヲ接
見スレハ不完ナル世界ヲ現シ完全明瞭ナル感覺ヲ以
テ之ヲ觀察スレハ完全ナル世界ヲ示スヘキハ當然ノ
理ナリ又之ヲ事實ノ上ニ考フルニ同一人類中ニテモ
不學無識ノ愚民ガ鳥獸草木ヲ見テ感スルト博物學者
ガ之ヲ見テ感スルトハ大ニ其趣ヲ異ニス蓋シ生物學
者ハ顯微鏡内ニ極樂ヲ見天文學者ハ望遠鏡内ニ淨土
ヲ見ルヘシ是ニ由テ之ヲ推スニ今日ノ我人ヨリ一層
發達シタル智眼ヲ以テ此天地宇宙ヲ觀見スルキハ必

ス我カ之ヲ感知スルヨリ一層美妙ノ世界ナルヲ感
知スルニ至ルヘシ果シテ然ラハ此世界ヲ極樂ト見ル
モ地獄ト見ルモ共ニ我感覺智識ノ上ニアルハ明カナ
リ是レ畢竟此世界ハ本來眞如界ナルニヨル是ヲ以テ
天台等ノ中道ノ諸宗ハ此土即チ極樂世界ナリト云フ
然レモ是レ我人ノ知見漸ク進テ完全明瞭ノ地位ニ達
シタル時ニ限ル今日ノ知見ニヨリテ之ヲ觀以ハ未ダ
此世界ノ極樂界ニアラサルヲ又明カナレハ我今日ノ
境遇ヨリ考フルキハ極樂ハ此土ノ外ニアリト云ハサ
ルヘカラス是レ淨土門ニアリテ西方ノ極樂ヲ説ク所

眞宗哲學序論

以ナリ之ヲ要スルニ天台等ニテハ完全ナル知見ノ上ニ極樂ヲ説キ淨土門ニテハ不完ナル知見ノ上ニ淨土ヲ立ツルニヨリテ其地位ニ異同ヲ生スルナリ而シテ西方十萬億土ニ極樂アリト云フガ如キハ唯此土ヲ距ルト遠シトノ意ヲ示スノミ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ我感覺上ノ境遇ヲ距ルト遠シトノ意ノミ

第十九節 若シ更ニ詳カニ此關係ヲ知ラント欲セハ理論ト實際トヲ辨別シテ説カサルヘカラ天台ハ理論宗ナレモ理論ノ外ニ實際ヲ説キテ其二者相合セサル所アルヲ見ル其相合セサルハ平等ノ上ニ理論ヲ立テ

眞宗原理第一

ナカラ差別ノ上ニ實際ヲ説キタルニヨル淨土門ハ之ニ反シテ差別ノ上ニ理論ヲ立テナカラ實際ニ於テハ却テ平等ヲ取ルニ至ル先ツ天台ニテ理論實際ヲ分チタル所以ヲ考フルニ理論上我身即佛ヲ唱フレモ實際上我人佛ニアラサルト明カナレハ實際ト理論ノ異ナル所以ヲ示スニ氷ト水ノ比喻ヲ以テス抑モ佛教ニテ眞如萬法ノ關係ヲ示スニ水波ノ比喻ヲ取り眞如ハ水ノ如ク萬法ハ波ノ如ク萬法即眞如ハ波即チ水ナリト云フカ如シト説クトアリ之レト同ク理論實際ノ關係ヲモ亦水ニヨリテ説明シ理論上我即チ佛ナリト云フ

ハ氷即水ナリト云フニ同シ何者我本體即チ佛ナル
ハ氷ノ本體即水ナルト同一ナレハナリ然レモ是レ唯
理論ノミ若シ實際上之ヲ視ルニ氷ハ氷ニシテ水ノ用
ヲナサズ水ハ氷ニシテ氷ノ形ヲ有セス二者全ク別物
ナルカ如ク我人ト佛モ亦同體ニアラス我人ハ不明不
完ノ迷見ヲ有シ所謂煩惱ノ氷ヲ有スルモノナレハ其
氷ノ解ケタル佛トハ決シテ同體ナリト云フ可ラス然
レハ我人ハ如何シテ佛ニ成ルヘキヤト云フニ其本性
已ニ佛ナレバ我人ハ善因ヲ修メ德行ヲ積ミ以テ漸々
ニ其氷ヲ溶解シ他日ヲ待チテ佛果ヲ得サル可ラス是

ニ於テ天台ニテハ修行ノ階級ヲ設ケ漸次ニ一級ヅ、
進ミテ他日佛果ノ位ニ達スルヲ説ク然ルニ我人ノ
氷至テ堅クシテ容易ニ溶解スヘカラサレハ佛果ニ達
スルニハ非常ノ苦難ト永遠ノ年月トヲ要スルナリ故
ニ淨土門ハ之ヲ名ケテ難行道ト云フ是レ畢竟天台ニ
テハ理論ノ上ニ我モ佛モ同一ナリト云ヘル平等論ヲ
唱ヘナカラ實際上ニハ我ト佛トノ異ナル差別論ヲ取
ルニヨル然ルニ淨土門ハ其所謂實際上ニ理論ヲ立テ
テ畢竟聖道門ニテ我人ガ成佛スルニ永遠ノ年月ヲ要
スルハ我人ハ凡愚ニシテ佛ト其性質ヲ異ニスルニヨ

ル故ニ我身ノ外ニ佛アリ此土ノ外ニ極樂アリト説キ
 來ルナリ
 第二十節 此ノ如ク天台ノ理論ト淨土ノ理論トハ平
 等差別ノ相違アリテ表裏相反スト雖モ若シ淨土ノ實
 際ニ至リテハ却テ平等論ヲ取リテ差別ノ階級ヲ設ケ
 ス誰レニテモ信心ヲ得タルモノハ未來ニ於テ即時ニ
 西方極樂ニ至リテ成佛スヘシト云フ即チ天台ニテハ
 理論上ニテ煩惱即菩提生死即涅槃ト説キタルモノヲ
 淨土門ハ實際上ニ適用シ來リテ我人ノ如キ凡愚ノ身
 ガ一タビ他力ニ歸順スレハ自ラ煩惱ノ氷ヲ溶解セサ

ルモ其迷ノ儘ニテ佛ニナルヘシ是レ煩惱即菩提ナル
 ニヨルト云フ然リ而シテ我人ト佛トハ煩惱ノ氷ノ有
 無ニヨリテ異ナル以上ハ其氷ヲ解カサスシテ佛ニナ
 ルヘキ道理萬アルヘカラスト云ヒテ疑フモノアルヘ
 シト雖モ其氷ハ我力ニテ解カントスルキハ永遠ノ年
 月ヲ要スルヲ以テ我ハ寧ロ之ヲ抱キ守リテ我ヨリ千
 百倍勝レタル佛ノ力ニヨルキハ即時ニ溶解シ去ル
 テ得ヘキ理ナリ是レ自力他力ノ名稱ノ分ル、所以ナ
 リ聖道門ハ自身ノ力ニシテ其氷ヲ溶解セントシ淨土
 門ハ他ノ力ニヨリテ溶解セントス其一ハ自力ノ修行

其二ハ他力ノ修行ナリ之ヲ要スルニ天台ト淨土トノ關係ハ左ノ表ニツイテ一見スヘシ

天台
理論——平等論
實際——差別論

淨土
理論——差別論
實際——平等論

若シ淨土實際ノ他力ノ理ヲ明カニセント欲セハ他力ノ躰ハ如何ナル佛ニシテ其佛ト我人ノ間ニ如何ナル關係アルヤヲ論セサルヘカラス

第二十一節 先ツ淨土門ニテ立ツル所ノ佛ハ之ヲ阿

彌陀佛ト名ケ西方十萬億ノ淨土ニ所住セル佛躰ヲ云フ阿彌陀ハ無量壽若クハ無量光ト譯シ時間ヲ窮メテ其壽命ノ盡クルナキヲ無量壽ト云ヒ空間ヲ極メテ其智慧ノ照サ、ルヲキヲ無量光ト云フ實ニ諸佛中ノ最上ニ位スル佛ナリトテ凡ソ佛教ニテ佛ト名クルモノニ平等差別ノ二様アリテ平等上ノ佛ハ眞如ト同躰ニシテ我人モ我心モ亦皆同躰ナリ之ヲ心佛及衆生是三無差別ト稱シテ其佛ハ天台華嚴等ノ平等的理論ノ上ニ説ク所ノ佛ヲ云フ若シ差別ノ上ニ考フルキハ心佛衆生是三有別ニシテ我ト佛ト眞如ト各別物ナラガ

ルヘカラス今淨土門ノ阿彌陀佛ハ此差別上ノ佛ヲ取
リ眞如平等ノ理性ヲ義トスルニアラス故ニ其佛ハ當
ニ我人ト異ナルノミナラス他ノ諸佛トモ異ナリテ諸
佛中最上ノ徳ト力トヲ具シタル佛ナリ故ニ其佛ハ差
別ノ最上ニ位シタルモノト謂フヘシ已ニ差別ノ最上
ニ位セル以上ハ眞如ト其性質ヲ同ウシ其作用ヲ一ニ
スルモ眞如其躰ト同一ナルニアラス即チ裏面ニハ眞
如ト其性徳ヲ合スルモ表面ニハ差別ノ關係ヲ存シテ
眞如トオノヅカラ異ナル所アリ故ニ其成佛ノ年歴ヲ
説クニモ十劫トナス即チ經文ニ成佛以來凡歷十劫ト

云フ是レナリ是レ差別ノ佛身ヲ義トスルニアラスシ
テ何ソヤ若シ平等ノ本性ニツイテ之ヲ云ヘハ無始久
遠ト説カサルヘカラス蓋シ佛教ニテ佛身ヲ論スルニ
法報應ノ三身ヲ分ツ其中法身ハ眞如ノ理ナレハ平等
ノ躰ナレハ報身ハ其徳ニ報酬シタル結果ノ佛身ナレ
ハ差別ノ佛身ナリ應身ハ群類ヲ化益センガ爲メニ此
世ニ理シタル佛身ナレハ亦固ヨリ差別ノ佛身ナリ阿
彌陀ノ躰ニモ此三種ノ佛身ヲ具有スルヲ以テ平等差
別ノ二様ノ理ヲ一身ノ上ニ具備スルヲ明カナリ然ル
ニ淨土門ハ差別上ニ理論ヲ立テタルモノナレハ其佛

論序學哲宗真

ハ固ヨリ差別上ノ佛身ヲ云フナリ決シテ其佛ト眞如
 ノ理性トヲ混同スルヲ勿レ果シテ差別上ニ此ノ如キ
 佛躰ノ存スル所以ハ更ニ證明ヲ要スルナリ
 第二十二節 抑モ佛教ハ因果教ト稱シテ徹頭徹尾因
 果ノ理法ヲ以テ組織シ善因善果惡因惡果ヲ以テ全教
 一貫ノ通則トナシ佛陀モ菩薩モ皆善因ヲ修メテ善果
 ヲ得タルモノニ外ナラストナス而シテ善因異ナレハ
 其果亦異ナラサルヲ得サレハ佛ニモ種々ノ佛アリ菩
 薩ニモ種々ノ菩薩アルニ至ル即チ佛ニモ菩薩ニモ種
 々ノ差別アルニ至ル是レ自然ニ道理ノ然ラシムル所

一第論理原宗真

ナリ果シテ然ラハ空間ノ限りナキ時間ノ窮リナキ世
 界ノ無數ナル群類ノ無量ナル其間ニハ如何ナル最上
 ノ善因ヲ修メテ今日最上ノ善果ヲ得タルモノアルヤ
 モ知ルヘカラス例ヘハ一ノ數アリ二ノ數アリ之ニ百
 倍千倍萬倍スル數アリト知ルキハ之ヲ推シテ無數無
 量倍スル大數アルヲ論スルヲ得ルト同一理ナリ若
 シ又之ヲ我人ノ上ニ考フルキハ我ヨリ下等ナル禽獸
 アリ魚虫アリ草木アリ土石アリ草木ハ土石ヨリ一層
 高等ニ位シ魚虫ハ草木ヨリ一層高等ニ位シ禽獸ハ魚
 虫ヨリ一層高等ニ位シ人類ハ禽獸ヨリ一層高等ニ位

スル理ヲ推スルハ更ニ人類ヨリハ一層二層乃至百千層高等ニ位スルモノアルヲ知ルヘシ若シ善因善果ノ道理眞ナレハ必ス此推論モ眞ナラサルヘカラス是ヲ以テ人類ヨリ數層高等ニ位スル佛菩薩アルヲ推知スルヲ得ヘシ而シテ其佛菩薩ニモ亦種々ノ等位アルヘキヲ以テ其等位中最上ニ位スル佛體ヲカルヘカラス之ヲ阿彌陀佛ト名ク即チ淨土門ニ立ツル所ノ佛ナリ其佛ハ無量ノ善因ヲ修メ無量ノ善果ヲ得タル體ナレハ又無量ノ徳ト力トチ有セサルヘカラス故ニ其體ハ差別ノ最上ニ位シテ平等ノ眞如ト其性質ヲ同ウス

ルモノチリ其性質トハ無礙自由ノ徳ト力トチ云フ即チ無量ノ智慧ト無量ノ慈悲ナリ我人猶ホ多少ノ智慧ト慈悲トチ有ス況ンヤ我人ニ無量倍スル阿彌陀佛ニ於テオヤ此無量圓滿ノ悲智ノ光ニヨリテ組織シタルモノ實ニ淨土一門ノ教義ナリ嗚呼其シ無量深大ノ教義ナラスヤ
第二十三節 此ノ如ク阿彌陀佛ノ無礙自由ノ徳ト力トチ有シ無量無邊ノ智ト悲トチ有スル所以チ知ルルハ我人其體ニ歸向依頼シテ我が生來抱有セル煩惱ノ堅氷ヲ其力ニヨリテ一時ニ溶解シ容易ク成佛スル所

以ノ理ヲ知ルヘシ聖道門ハ自カノ修行ナレハ自ラ其
氷ヲ溶解セサルヘカラス故ニ永久ノ年月ヲ要スト雖
モ淨土門ハ阿彌陀佛ノ無量無礙ノ光ニヨリテ溶解ス
ルモノナレハ固ヨリ年月モ苦行モ要セサルナリ然レ
モ我人一心ニ其佛ヲ信念セサレハ縱令其躰ニ平等自
由ノ徳ヲ有スト雖モ我人其悲光ノ餘澤ヲ被ムル一能
ハサルハ蓋シ其佛ノ慈悲ハ智慧ニヨリテ發シ道理ニ
ヨリテ生シタルモノナレハ道理ニ反スル救助ヲナス
ヘキ理ナケレハナリ今我人其佛ヲ信念セスシテ其救
助ヲ受ケントスルハ是レ道理ニ反スルモノナリ語ヲ

換ヘテ之ヲ云ヘハ因果ノ規則ニ反スルモノナリ是レ
豈佛教ノ許ス所ナランヤ且ツ余ハ其徳ノ無礙自由ナ
ルヲ太陽ノ光線ノ無礙自由ナルニ比シテ其理ヲ示サ
ントス日光ハ自由ニシテ如何ナル間隙モ必ス之ニ入
リ其力ノ及フ所高下大小平等ニ照ササルハナシト雖
モ暗室アリテ其窓戶ヲ密鎖スルモ其中ニ照入スル
コト能ハス今阿彌陀佛ノ悲智ノ光ハ實ニ無礙自由ニシ
テ賢愚利鈍ヲ平等ニ照サ、ルナシト雖モ我人ハ我心
内ニ煩惱ノ堅氷ヲ蓄ヘ四面ヲ鎖シテ恰モ暗室ノ如シ
故ヲ以テ無礙ノ光モ其内ニ入ル能ハス若シ我人阿彌

陀佛ニ對シテ我心門ヲ開キテ其無量無礙ノ悲智ノ二
光ヲ其中ニ入ル、井ハ恰モ大陽ニ向ヒテ暗室ノ窓戶
ヲ開クガ如ク我年來蓄積セル堅氷一時ニ溶解シテ未
來淨土往生ノ即時ニ決定スルニ至ルヲ得ヘシ之ヲ正
定聚ノ位ニ往スト云フ而シテ其心門ヲ開クトハ一心
一向ニ信念スルヲ云フナリ是理ニヨリテ眞宗一家ノ
傳フル所ノ信心正因他力往生ノ理ヲ了知スヘシ然ル
ニ世間ノ論者ハ自力成佛ハ因果ノ規則ニヨルヲ以テ
道理ニ合スト雖モ他力成佛ハ因果ノ規則ニ反スルヲ
以テ信シ難シト云フ是レ因果ノ理法ヲ知ラサルモノ

ハミ凡ソ因アリテ後果アルハ必然ノ理ナリト雖モ其
修ムル所ノ因ハ必ス一道ニ限ルニアラス難行ノ因ヲ
修メテ其果ヲ得ルモ易行ノ因ヲ修メテ其果ヲ得ルモ
共ニ因果ノ理ニ從フモノナリ例ヘハ飲用水ヲ求ムル
ニ自ラ地ヲ穿チテ井水ヲ得ルハ難行ナリ源泉ノ自然
ニ流ル、者ヲ引キ來リテ之ヲ用フルハ易行ナリ人誰
レカ之ヲ評シテ其一ハ原因ニヨリテ其果ヲ得其二ハ
原因ナクシテ其果ヲ得タル者ト云フヤ是レ共ニ原因
アルニアラスヤ今阿彌陀ノ德ハ此自然ニ流ル、水ノ
如ク我人ハ毫モ自ラ其力ヲ役スルヲ要セス唯此水ヲ

我躰内ニ引キ來ルノミニテ我目的ヲ達スルトヲ得ヘ
シ之ヲ眞宗ニテハ彌陀ニ歸順スル即時ニ其佛所有ノ
諸善萬徳ガ我心中ニ融入顯現シ來リテ我人ヲシテ淨
土往生決定ノ地位ニ至ラシムルト説キテ其道理ハ南
無阿彌陀佛ノ六字中ニ包含シテ存スト云フ此六字中
南無トハ歸命ト譯シ歸命トハ本願招喚ノ勅命ナリト
釋シテ即チ我人ガ阿彌陀佛ノ命令ニ歸順スルトナリ
而シテ阿彌陀佛ハ群類衆生ヲ化益救助センガ爲メ大
願望ヲ起シテ已ニ難苦ヲ重テ其望ヲ成就シタル躰
ナレハ我人ガ其躰ニ歸順スルト同時ニ其佛力ニヨリ

テ我人ヲ救助シ得ルモノトナス此力ヲ阿彌陀ノ願力
ト名ク因テ我人ノ淨土往生ハ此願力ニヨルモ其力ヲ
我躰ニ引キ來ルニハ信心ナル原因ヲ要スレハ之ヲ自
力ノ修行ニ比スルニ難易ノ別アルノミニテ共ニ因果
ノ規則ニ本ツクモノナリト知ルヘシ

第五段 眞宗原理論第二

第二十四節 情感的宗教

第二十五節 我人ノ情感

第二十六節 佛躰ノ情感

論序學哲宗真

第二十七節 情感智力ノ兼備
 第二十四節 前段ハ淨土門ノ純正哲學ニ屬スル部分
 ナ論評シタルモノニシテ即チ淨土門ハ平等論ヲ取ラ
 スシテ差別論ヲ取ル所以ヲ述ヘタルモノナリ而シテ
 其實表面ニ差別ヲ取り裏面ニ平等ヲ取ル所以オノヅ
 カラ知ルヘシ淨土門ノ阿彌陀佛ハ差別上ノ佛躰ヲ指
 スモノナレモ其徳ニ至リテハ眞如平等ノ理ニ異ナラ
 ス又我人ト佛トノ差別ヲ説キナガラ成佛ノ一段ニ至
 リテハ階級年月ノ差別ニヨラス是レ余ガ先キニ淨土
 門ヲ評シテ理論上ニ差別ヲ取り實際上ニ平等ヲ取り

二第論理原宗真

タリト云フ所以ナリ畢竟スルニ平等ト差別トハ表裏
 兩面ノ關係ヲ有シ同躰不離ノ性質ヲ有スルニヨル次
 ニ其原理ノ第二條ニ移リ心理學上ヨリ講究スルキハ
 淨土門ハ智力ニヨラスシテ情感ニヨル所以ヲ説明セ
 サルヘカラス而シテ此心理上ノ説明ハ第一條ノ原理
 ト同一ノ關係ヲ有シテ表面ハ情感ニヨリ裏面ハ智力
 ニヨリ智情兩面一躰ノ道理ニ基クモノナリ之ニ對シ
 テ聖道門ハ表面ニ智力ヲ取り裏面ハ情感ニヨルモノ
 ナリ故ニ此點モ亦天台ト淨土ト相反スル所以ヲ知ル
 ヘシ而シテ余ガ淨土門ヲ名ケテ情感的宗教ト云ヒ聖

道門ヲ名ケテ智力的宗教ト云フハ唯其表面一方ニ與
 フル區別ノミ先ツ淨土門ヲ情感的宗教トナス所以ハ
 我人ノ身上ニ考フルト我人ガ信念スル佛躰ノ上ニ考
 フルトノ二様アリ第一ニ我人ノ上ニ考フルルハ其宗
 門ニテハ人ノ賢愚ヲ問ハス如何ナル無智不學ノモノ
 ニテモ信シ得ヘキ教義ヲ説キ人ノ學問道理ニヨラス
 シテ唯信念依憑ヲ本トスルハ其智力的ニアラサル所
 以ナリ殊ニ眞宗ニテハ信心正因ト説クガ如キ其信心
 ハ阿彌陀佛ノ命令ニ歸順シ其願力ニ依憑スルヲト解
 スルガ如キ又之レニヨリテ我心ニ安樂慶喜ヲ生スト

云フガ如キ皆情感的作用ナラサルハナシ第二ニ佛躰
 ノ上ニ考フルルハ阿彌陀佛ニハ智慧ト慈悲トノ兩德
 ナ兼備スルニ淨土門ハ其中慈悲門ヲ開キテ立テタル
 宗旨ナレハ是レ又情感ニ屬サ、ルヘカラス
 第二十五節 先ツ我人ノ上ニ其宗義ヲ考フルニ淨土
 門ノ信心ハ愚昧ノ妄信ナルガ如ク見ユレモ其教理ノ
 由リテ起ル所ヲ尋ヌルニ中道諸宗ノ哲理ヲ實際ニ應
 用シ來リタル信心ナレハ決シテ妄信ト云フヘカラス
 唯我人ガ一々其哲理ヲ我智力ニ訴ヘテ討究セサルノ
 ミ抑モ信ニ二種アリ即チ道理窮リテ生スル信ト道理

ニヨラスシテ起ス信是ナリ此道理ニヨラサル信ニ亦
二種アリ即チ道理ニ合スルモノト道理ニ反スルモノ
是レナリ眞宗一家ノ信ハ天台ノ理論ノ裏面ニヨリテ
組織セル道理ニヨルモノナレハ縱令人ヲシテ其理ヲ
究メシメサルモ其實道理ニ合スル信ナルヲ疑テ容レ
ス又眞宗信者ノ其教ヲ信スルハ情感ノ作用ニヨルト
云フモ情感ニハ下等ノ情感ト高等ノ情感トノ二種ア
ルヲ知ラサルヘカラス例ヘハ愚民ハ雷ヲ恐レテ雷
神ヲ祭り洪水ヲ恐レテ水神ヲ祭ルガ如キハ恐怖ノ妄
情ヨリ發シ利己ノ私心ヨリ生スルヲ以テ下等ノ情感

ニ屬スルモノト云フヘシ野蠻人種ノ宗教ハ皆此種ニ
屬ス然ルニ博愛共樂ノ大慈悲心ヨリ起リタル宗教的
情操ハ實ニ高等ノ情感ニシテ人ノ人タル眞正ノ徳性
ヲ啓發シ其中ニハ眞善美ノ三元素ヲ包有スルモノナ
リ此クノ如キ情操ニヨリテ組織セル宗教ハ實ニ高等
ノ宗教ト云ハサルヘカラス今眞宗ニテ立ツル所ノ教
義ハ正ク此博愛共樂ノ慈悲心ニ本キタルモノニシテ
眞善美ノ徳性ヲ啓發セルモノナリ即チ其宗ニテハ阿
彌陀佛ノ大慈悲ヲ我軀ニ融入シ來リテ我ヲシテ其悲
光ノ中ニ歡喜踊躍セシムルヲ説クヲ以テ決シテ恐

怖利己ノ私心ヨリ生スルモノニアラス已ニ其宗ニテ
惡人正機ト説キテ惡人ヲ以テ第一ノ目的トシ五障三
從ト云ヒテ女人ヲ貶斥スルカ如キハ實ニ彌陀ノ慈悲
ノ平等無私ナルヲ示スモノナリ蓋シ彌陀ハ我人ヲ
一子ノ如ク平等ニ愛憐スルヲ以テ惡人ヲ見レハ一層
愛情ノ情ヲ引起シ之ヲ救助セントスルノ念一層甚シ
殊ニ婦女子ノ如キ天然ノ性質トシテ男子ト同等ノ職
務ニ就キ同等ノ權力ヲ爭フコト能ハサルモノヲ見レハ
其慈悲心ノ深キ之ヲ默然ニ附シ去ルコトヲ得サルナリ
凡ソ人ノ父母タルモノハ其子ヲ平等ニ愛憐スルヲ以

テ其中遊惰放蕩ニシテ一身ノ活路ヲ立ツルコト能ハサ
ルモノアレハ之ヲ愛憐スルノ情却テ他ノ子ヲ思フヨ
リ甚キモノナリ又生來體質羸弱或ハ不具ニシテ他人
ト同等ノ職務ニ就クコト能ハス同等ノ權力ヲ爭フコト能
ハサルモノアレハ一層之ヲ愛スル情切ナルモノナリ
又父母カ其子ノ惡ヲ擧ケテ之ヲ責メ他人ノ善ヲ擧ケ
テ之ヲ譽ムルハ自身ノ子ヲ憎ムニアラスシテ愛スル
ヨリ起ルコトハ余カ辯ヲ待タス故ニ佛教ニテ殊更ニ女
子ノ惡ヲ擧クルノ意ハ女子ヲ貶斥スルニアラスシテ
之ヲ愛憐スルノ情一層深キニヨルモノト知ルヘシ此

ノ如キ平等無私ノ大慈悲心ニ本ツキテ組織セル宗旨
 ナレハ決シテ利己ノ私心ニヨリテ成立セル宗教ト同
 日ニ論スヘカラス而シテ眞宗ニテハ利己ノ私心ヨリ
 生スル祈禱禁厭ノ如キハ一宗ノ法規トシテ之ヲ禁止
 セリ且ツ眞宗ニテ稱名念佛ヲ勸ムルモ唯徒ラニ口ニ
 唱フル念佛ヲ云フニアラス六字ノ意ヲヨク其心ニ了
 解シ其味ヲ受領シテ阿彌陀佛ニ歸依スル宗義ナレハ
 全ク情感一方ノ念佛ト云フヘカラス故ニ淨土門殊ニ
 眞宗ハ情感的宗教ナリト云フモ情感中高等ノ情操ニ
 基キタルモノナルヲ知ルヘシ而シテ高等ノ情操ハ

眞善美ノ諸徳ヲ具有シ完全ナル道理明瞭ナル知識ニ
 基キタルモノナルハ固ヨリ智力ノ最上ヨリ生シタル
 モノナルヲ亦敢テ多言ヲ要セシヤ故ニ余ハ淨土門ハ
 表面ニ情感ヲ示シ裏面ニ智力ヲ具シ情智兩全ノ宗教
 ナリト云フナリ畢竟此ノ如キ高等ノ宗教ノ我邦ニ起
 リ且ツ今日ニ行ハルハ我人民一般ノ知識ノ程度意
 外ニ高キヲ證スルニ足ル
 第二十六節 次ニ佛身ノ上ニ考フルニ淨土一門ニ於
 テ立ツル所ノモノハ先キニ已ニ述ヘタルガ如ク平等
 ノ理性ヲ云フニアラスシテ差別ノ佛身ヲ義トスルモ

ノナレハ其躰ノ上ニ心性作用アルヲ説キ無量ノ智
慧ト無量ノ慈悲ノ存スルヲ示スヲ以テ耶蘇教ノ天
神ト甚々相近キモノ、如ク見ユルモ大ニ其趣ヲ異ニ
スル所アリ耶蘇教ニテハ此宇宙萬有ハ天神ノ意志ニ
ヨリテ創造シタルモノニシテ我人ノ善惡賞罰モ天神
ノ獨斷ニヨリテ審判スルモノナリト説クヲ以テ道理
上講究スルキニハ天神ノ何ノ目的ヲ以テ此世界ヲ作
リシヤ何故ニ此ノ如キ不幸不完ノ世界ヲ作りシヤ何
故ニ惡心ヲ我ニ賦與セシヤ何故ニ我人ヲシテ盡ク神
ヲ信スルヲ得セシメサルヤ神ハ果シテ全智全能ヲ

有スルモノナルヤ全智全能ノ神ナラハ世界創造ノ時
ニ已ニ其最後ノ結果ヲ豫知前定スヘキ理ナラスヤ已
ニ之ヲ前定スル以上ハ何故ニ人ニ自由意志ヲ與ヘテ
徒ラニ其果シテ善ヲナスカ惡ヲナスカ試ルヲナス
ルヤ神ハ我人ガ其賦與サレタル自由意志ニヨリテ如
何ナルヲナスカヲ創造ノ時ニ前知スルノ智力ヲ有
セサリシヤ等ノ難問續々起リ來リテ道理上甚々其説
明ニ苦ム是レ畢竟其教ノ古代蠻民ノ想像ニ本キテ起
リタルモノニシテ道理上ノ宗教ニアラサルニヨル然
ルニ佛教ハ道理ニ基キテ組織シタル宗教ナレハ此天

地宇宙ハ眞如開發ノ世界ナリト定ム故ニ其間ニ現見
スル森羅ノ諸象ハ勿論我人ノ精神モ神モ佛モ其躰皆
眞如ナレハ皆悉ク眞如自躰ニ固有セル規律ニ從ハサ
ルヘカラス其規律トハ因果ノ理法是レナリ故ニ我人
ヲ賞スルモノモ此理法ニシテ罰スルモノモ此理法ナ
リ我人が自ラ進テ佛ニ成ルモ我人ニ先チテ佛ニナリ
タルモノアルモ佛が我人ヲ救助スルヲ得ルモ我人
が其體ニ依憑スルモノトシテ因果ノ理法ニヨラサル
ナシ故ニ阿彌陀佛が我人ニ無量倍スル無量ノ智慧ト
慈悲トヲ兼有スルニ至リタルモ我人ニ無量倍スル無

量ノ善因ヲ修メテ得タル結果ナリト知ルキハ毫モ怪
ムニ足ラサルナリ是レ畢竟其教ノ道理教ニシテ想像
教ニアラサルニヨル又佛教ニテ佛ニ種々ノ佛アリ極
樂ニ種々ノ極樂アリト立ツルモ原因ニ種々アレハ結
果ニモ種々アルヘシト云ヘル因果ノ理法ニ出テタル
ヲ明カナリ又此世界ハ眞如開發ノ世界ニシテ事々物
々其躰皆眞如ナレハ人類ハ勿論國土山川ニ至ル迄若
シ成佛ノ原因ヲ修ムルヲ得レハ成佛スヘキ道理ナ
ルヲ以テ天台ニテハ國土山川悉皆成佛ヲ説クニ至ル
又我人が誰ニテモ其迷執ヲ拂ヒ去レハ佛性ヲ開發シ

テ佛トナルト説クモ因果ノ道理ニ外ナラス例ヘハ氷
ヲ溶解スレハ水トナルハ其體モト水ナルニヨル氷若
シ砂石ヨリ成リタルモノナラハ何程之ヲ火ニ温ムル
モ水ニ濕スモ水トナルヘカラス即チ我人ハ我迷執ヲ
溶解シ去レハ佛トナルハ畢竟其躰モト眞如ニシテ我
ニ本來佛性アルニヨルト云フナリ是レ皆因果必然ノ
理法ニ本カサルハナシ然ルニ淨土門ハ實際差別ノ上
ニ立テタル宗旨ナレハ我人自ラ煩惱ヲ斷滅シテ佛性
ヲ開現スルヲ能ハサルモノト斷定シ阿彌陀佛ニ歸依
スル他方成佛ノ説ヲ唱フルニ至レリ是レ因果必然ノ

理ニ反スルガ如キモ前段第二十三節ニモ論スルガ如
ク唯原因ノ種類異ナルノミニテ矢張因果ノ理ニ本ツ
クモノナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ淨土門ニテ阿彌陀佛
ヲ立ツルハ表面ニハ耶蘇教ノ天神ノ如ク想像的情感
上ニ現スル躰ヲ取ルモノ、如キモ裏面ニハ因果必然
ノ理法ニヨリテ論定シタル道理的智力上ヨリ出テタ
ル説ニヨルモノナルヤ明カナリ若シ又淨土門ノ由リ
テ開ケタル阿彌陀佛ノ慈悲門ヲ考フルキハ其裏面ニ
智慧門アリテ之レヨリ出テタルヲ明カナレハ實ニ智
情一致悲智兼備ノ上ニ立テタル宗教ナルヲ知ルヘシ

蓋シ佛ニハ自ラ進テ眞理ヲ證得スル作用ト願テ世間
 ヲ利益スル作用トノ二種ヲ具有ス其一ハ智慧ニシテ
 其二ハ慈悲ナリ今阿彌陀佛ノ無量ノ慈悲ハ無量ノ智
 慧ヨリ生シタルモノナレハ表面ニ情感ノ相ヲ示シテ
 裏面ニ智力ノ性ヲ抱クモノト云フモ不可ナルコナシ
 第二十七節 此ノ如ク淨土門ハ我人ノ上ニ考フルモ
 佛鉢ノ上ニ考フルモ共ニ情感ニヨリテ組織シタル宗
 教ナルコト明カナリト雖モ其實全ク下等ノ妄想的情感
 ニヨリタルモノニアラスシテ道理智識ニ本キタル高
 等ノ情感ニヨリテ組織セル宗教ナルコト亦疑ヲ容レス

故ニ余ハ之ヲ表面ニ情感ヲ示シ裏面ニ智力ヲ含ム宗
 教ナリト云フ之ニ反シテ聖道門ハ智力ニヨリテ組織
 シタル宗教ニシテ自ラ道理ヲ究メテ眞理ヲ證得スル
 主義ヲ取り徹頭徹尾道理ヲ以テ貫キタルモノ、如シ
 ト雖モ又全ク情感ノ元素ヲ含有セサルニアラス即チ
 聖道諸宗ニアリテモ釋迦所説ノ教義ハ眞ナリト信シ
 之ニヨリテ迷苦ヲ脱シテ悟樂ヲ得ンコト願フカ如キ
 皆情感ニ屬スル作用ナリ又大乘宗ニアリテハ其佛モ
 我人ノ修行モ皆自利他利兼行ヲ目的トシ悲智兩作用
 ヲ開發スルニアレハ道理ノ裏面ニ情感ヲ包含スルモ

ノナルヲ明カナリ今其別ヲ示スヲ左ノ如シ

聖道門

表面——智力
裏面——情感

淨土門

表面——情感
裏面——智力

故ニ心理學上比較スルニ聖道淨土ハ純正哲學上ノ比較ト同ク正反對ノ性質ヲ有スルモノナリ然リ而シテ二様並存一躰兩面ノ原理ヨリ視ルキハ一佛教中ニ此ノ如キ相反ノ點アルハ却テ其完全ノ宗教ナルヲ證スルモノナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ智情兼全悲智圓

滿ノ宗教ナルヲ示スモノナリ若シ其二者中一方ノミヲ取リテ他ヲ排スルモノナルキハ是レ中道ノ正理ヲ失シタル偏見ト云ハサルヘカラサルモ兩面一躰ノ關係ニヨリテ開立シタルモノナレハ固ヨリ中道ノ真理ト云フヨリ外ナシ然リ而シテ淨土門ノ眞味ハ寧ロ此情感ノ一方ニアリテ存スルヲ忘ルヘカラス蓋シ絶對不可知的ノ妙ハ智力ニヨリテ推測スヘキモノニアラスシテ情操上ニ感受スルモノナリ殊ニ妙中ノ妙ニ至リテハ言亡慮絶ニシテ唯之ヲ無言無思ノ間ニアリテ感受スルヨリ外ナシ今眞宗ノ信心ハ全ク此點ニ

本キ佛力ノ不思議我躰ニ融入シ來リテ實ニ我ヲシテ
知ラス識ラス天ニ舞ヒ地ニ躍ルノ大歡喜ヲ得セシム
眞宗ノ妙其レ此ニアルカ是レ余カ次段ニ論明セント
欲スル所ナリ

第六段 眞宗原理論第三

第二十八節 道理ト啓示トノ別

第二十九節 人智ノ有限

第三十節 絶對ト啓示トノ關係

第三十一節 佛教ト啓示トノ關係

第三十二節 眞宗ト啓示トノ關係

第三十三節 道理ト啓示トノ並存

第二十八節 是レヨリ眞宗原理第三條ニ移リ淨土門
ハ啓示ニヨリテ絶對門ヲ開キタル宗旨ナルヲ論明
セントス啓示トハ或ハ天啓ト云ヒ或ハ顯示ト云フモ
其意同一ニシテ先キニ已ニ解スルガ如ク神佛聖賢ノ
啓告訓示ヲ義トスルナリ若シ眞宗ヲ哲學上ヨリ講究
セントスルハ第一條ノ原理最モ重要ナルモノナレ
モ若シ宗教上ヨリ信念セント欲スルハ此第三條最
モ重要ナリトス之ヲ要スルニ第一條ハ全ク道理智識

ノ範圍内ニ屬シ第二條ハ其内外ニ跨リ此一條ハ全ク道理以外智識以上ニ涉リタルモノニシテ宗教ニハ此一種ノ原理ヲ加ヘサレハ決シテ其組織ヲ完成スルヲ能ハス凡ソ如何ナル宗教ニテモ其基ツク所ノ原理ハ道理以外智識以上不可思議不可知的平等絶對ノ本躰ナレハ道理智識以内ヲ目的トスル學問トハ決シテ同一ニ論スヘカラス我人モ強壯無事ノ日ニアリテハ更ニ宗教思想ノ起ルユトナキモ一旦老衰病患或ハ災難等ニ會スルキハ必ス我心ノ動クアリテ人智ノ有限、人力ノ有量ヲ感シ始メテ不可知的ノ關門ヲ敲キ絶對ノ

本躰ニ向ヒテ呼フニ至ル而シテ其躰我道理知識ノ外ニアレハ我人ハ啓示ヲ信シテ宗教ニ歸スルヨリ外ナシ蓋シ宗教ノ妙モ佛教ノ妙モ眞宗ノ妙モ此啓示ヲ離レテ存スヘカラス故ニ古來宗教學者中ニモ宗教ニハ道理ト啓示トノ二様並存ノ必要ヲ唱フルモノアリ蓋シ道理一方ニテ組織シタルモノハ是レ哲學ナリ啓示一方ニヨリテ組織シタルモノハ單純ノ想像的即チ情感的宗教ナリ若シ完全ノ宗教ヲ見シト欲セハ此二種ノ性質ヲ兼備シタルモノヲ取ラサルヘカラス西洋ニテ哲學上ニ宗教ヲ組織セント欲スルモノアレハ道理

一方ニヨルヲ以テ其目的ヲ達シ難シ又耶蘇教ノ如キ
 ハ啓示一方ヲ以テ立テタルモノナレハ今日學說ト牴
 觸スル所多クシテ將來之ヲ以テ學術世界ノ宗教トス
 ルト難シ然リ而シテ獨リ佛教ハ道理啓示ニ方ニヨリ
 テ組織セルモノナレハ實ニ將來ノ世界ニ適合セル宗
 教ト謂フヘシ是レ眞ニ佛教ノ諸教ニ超過セル點ナラ
 シト信スルナリ而シテ道理上ノ論究ハ前二段ニ於テ
 大略辨明シ終ルヲ以テ是レヨリ啓示ノ一點ヲ説明セ
 シトス
 第二十九節 今此點ヲ説明スルニ當リ先ツ人智ノ有

第二十九節 (人智ノ有限)

一一三

限ナル所以ヲ論究セサルヘカラス人智若シ無限ナル
 ハ宇宙内外ノ道理盡ク知り得ヘキ理ナレモ人智ニテ
 知ルヘカラスナルモノ幾多アルヲ知ラス而シテ其知ル
 ヘカラサルハ他日人智ノ進ムニ從フテ知り得ヘキモ
 ノヲ意味スルニアラスシテ到底萬々世ノ後ニ至ルモ
 知ルヘカラスナルモノヲ云フ例ヘハ宇宙以外ノ狀態如
 何、絶對世界ノ實況如何等ノ問題はレナリ此ノ如キハ
 人智ノ進歩ニヨルモ將來到底知ルヘカラスナルモノナ
 ルトナ知ルフミ已ニ古來ノ學者ガ皆物質ノ實躰、心象
 ノ本性ノ如キハ斷言シテ之ヲ不可知的ニ屬シタルハ

一一三

人智ノ有限ナルニヨルナリ然ルニ之ニ反對シテ不可
知的ハ決シテ人智以外ノモノニアラス已ニ不可知的
ノ不可知的ナルヲ知レハ是レ可知的ナルニアラスヤ
ト論スルモノアリ其論一理アリト雖モ凡ソ知ルト云
フトニ二種アル所以ヲ記セサルヘカラス其一ハ知ル
ヘシト知リ其二ハ知ルヘカラスト知ル是レナリ若シ
人智果シテ無限ナルニ於テハ其二者共ニ知ルヘシト
シテ知ラサルヘカラス然ルニ其中ニ知ルヘカラス
モノ、存スルハ畢竟有限ヲ證スルモノナリ縱令人智
ハ佛教ニテ説クカ如ク眞如ノ理性ヨリ開發スル者ナ

レハ其本體無限ナリトスルモ無限ノ裏面ニハ必ス有
限ノ存スルアリテ二者相離レサルモノト云ハサルヘ
カラス而シテ我人ハ其有限ノ一面ニ知識ヲ開クモノ
ナレハ其知識上知ルヘカラスナルモノアルト疑ヲ容レ
サルナリ且ツ人智ハ相對ヨリ成リ之レニヨリテ知ル
トヲ得ルモノハ相對差別ノ境遇ニ限ルト云フトハ古
來學者ノ一致スル論ニシテ其説ニヨルモ絶對ノ境遇
ハ不可知的ニ屬スヘキハ言ヲ待タス之ヲ要スルニ人
智ハ有限ニシテ絶對不可知的ヲ知ルノ力ナシト謂フ
ヘシ

第三十節 果シテ然ラハ我人ハ如何シテ絕對ノ境遇
 ノ存スルヲ知り絕對ノ本體ノ存スルヲ知ルヤ阿彌陀
 佛並極樂世界ハ先キニ示スカ如ク差別上ニ立ツル所
 ノモノナレモ之ヲ差別上ニ置クハ唯表面一方ノ見
 ミ其裏面ノ性質ヲ論スルキハ絕對ノ本體、絕對ノ境遇
 ト云ハサルヘカラス然ルニ我相對ノ智力ヲ以テ之ヲ
 知ルヲ得ルハ如何ナル道理ニヨルヤ是レ必ス起ラ
 サルヲ得サル疑問ナリ蓋シ我人ノ智力ハ有限ナルモ
 全ク絕對ヲ知ルヘカラサルニアラス相對ノ推理ノ及
 ブ限リ絕對其者モ多少知り得ルナリ即チ絕對不可知

的ノ存在ヲ如キ是レナリ已ニ相對ノ境遇アレハ之ニ
 對シテ絕對ノ境遇ヲカルヘカラス可知的ノ現象存ス
 レハ之ニ對シテ不可知的ノ本體存セサルヘカラス是
 レ我人ノ相對ノ推理ノ及ホス所ナレハ其存在スルヤ
 否ハ知り得ルナリ然レモ絕對其者ノ性質或ハ不可知
 的其體ノ作用ニ至リテハ我人ノ有スル相對的知識ノ
 知ル限リニアラス然ラハ其性質作用ハ何ニヨリテ知
 リ得ルカ是レ即チ啓示ニヨルモノナリ啓示トハ何ソ
 ヤ我方ヨリ推究シテ知ルニアラスシテ絕對不可知的
 ノ方ヨリ我カ上ニ告知スルヲ云フ或ハ我レヨリ一層

優レタル知識ヲ有スルモノヨリ我レニ訓示スルヲ云
フ此啓示ノ理ハ固ヨリ論理上ヨリモ推究スルヲ得
ヘシ例ヘハ我人ノ如キ有限ノ智ト力トヲ有スルモノ
猶ホ多少相對ノ外ニ絶對ノ存スルヲ測知スルヲ得
ル以上ハ我ヨリ優レタル無量ノ智ト力トヲ有スル神
佛ノ躰果シテ存スルニ於テハ必ズ彼ノ方ヨリ我方ヘ
啓示スルヲ得ヘキ道理ナリ我ハ彼ヲ測知スルヲ得
得テ彼ハ我ニ啓示スルヲ得サル道理アラシヤ此理
ニヨリテ宗教上ニテハ絶對不可知界ノ性質作用ハ啓
示ニヨリテ知り得ルモノトナズ

第三十一節 已ニ然ラハ佛教ハ誰レノ啓示ニヨリタ
ルモノナルヤ曰ク釋尊ノ啓示ニヨル即チ其一代五十
年間ノ說法是レナリ若シ又釋迦ノ本地ヲ尋ヌレハ阿
彌陀佛ノ啓示ト云フテ可ナリ今聖道諸宗モ皆此啓示
ヲ要セサルニアラサルモ其成佛ハ自力ノ修行ニヨル
モノナレハ淨土門ノ如ク甚シカラス淨土諸宗ハ阿彌
陀一佛ニ歸依シテ未來其淨土ニ往生センヲ志願ス
ルモノナレハ必ズ此啓示ヲ信セサルヘカラス固ヨリ
道理上ニ於テモ阿彌陀佛ノ存スヘキ所以及ヒ此佛ニ
歸依シテ未來成佛スヘキ所以多少推知スルヲ得ル

モ其果シテ然ル所以ヲ直接ニ證見スルハ釋迦彌陀ノ諸佛ノ啓示並眞宗ニ於テハ其開山及七祖ノ垂訓ニヨルヨリ外ナシ凡ソ世間ノ人ニシテ苟モ佛教ノ門ニ入り眞宗ノ法ヲ窺ハント欲スルモノハ必ス此點ニ於テ信スル所ナカル可ラス蓋シ其宗ニ於テ末代今日ノ凡愚ト云フハ獨リ今日ノ愚夫愚婦ヲ指スニアラス如何ナル智者學者ニテモ有限ノ知識ヲ有スル以上ハ無限ノ知識ヲ有スルモノヨリ之ヲ視レハ實ニ無智不學ノ凡愚ト呼ハサル可ラス又今日ノ青年書生カ二三ノ書ヲ讀ミ一二ノ事ヲ知ルモ之ヲ釋迦ノ如キ大聖人ニ比

シテ果シテ智者學者ト誇稱スルヲ得ヘキヤ余輩カ物理天文ノ一部ヲ知ルモ自ラ發見シテ之ヲ知ルニアラス他人ノ發見シタルモノヲ他人ノ著セル書ニツイテ知ルノミ然ルニ釋迦牟尼大聖ハ自ラ宇宙ノ大眞理ヲ啓發シ前代未聞ノ大宗教ヲ開立シ其教ハ滅後四方ニ傳播シ三千年下ノ今日ニアリテ全地球上五億人ノ信者アルヲ見ルハ實ニ其德化ノ無量無邊ナルヲ驚嘆セサル可ラス余輩果シテ此大聖人ト比肩スヘキヤ今余輩死スルモ誰レカ百年ノ後其墓ヲ訪ヒ其名ヲ記スルアラシヤ是レ豈天壤ノ相違アルニアラスヤ然ルニ

今日ノ青年輩動スレハ此ノ如キ聖人ヲ輕賤シ猥リニ其說ヲ排斥セントス何ゾ思ハサルノ甚キヤ請フ少ク自省スル所アレ若シ夫レ我人ノ智力ノ有限ナルヲ知リテ更ニ深ク哲理ノ上ニ考フルニ此眼前ノ世界ハ我五感上ニ成立スル現象ニ過キス我心内ノ思想ト雖モ我腦髓中ニ發動スル作用ニ外ナラサレハ假リニ五感以上ノ感覺ヲ有シ人類ヨリ數倍發達セル腦髓ヲ有スルモノアリト定メテ我人ノ今日論スル所争フ所ノモノヲ考ヘ去ラハ實ニ捧腹ニ堪ヘサルコト多カラシム此ノ如キハ空想ノ一種ナリト雖モ空間ノ廣キ時間ノ永キ

世界ノ多キ宇宙ノ大ナル果シテ五感以上ノモノナキヲ保證ス可ラス又我人ヨリ數倍發達セルモノナキヲ斷言ス可ラス故ニ我人ハ其有限ノ智力ニテ知ル可ラサルモノアラハ宜ク我ヨリ高等ニ位セル聖賢神佛ノ啓示ニ依憑セサル可ラス此點ハ佛教中淨土一門別シテ眞宗ニ要スル所ナレハ左ニ其理由ヲ述フヘシ
第三十二節 聖道諸宗ハ平等上ニ理論ヲ立テ差別上ニ實際ヲ取り淨土及眞宗ハ其反對ヲ取りタルコトハ先キニ第二十節ニ於テ論明セル所ナルカ更ニ其理ヲ絶對相對ノ上ニ於テ考フルハ聖道門ノ實際ハ相對差

別ノ上ニツイテ一善々々ヲ修メテ一級ツ、昇進スル
漸進的秩序ニヨリタルモ淨土門ハ然ラス其實際ハ相
對ヨリ絶對ニ超達スル直進的方法ヲ取りタルモノナ
レハ格別ニ啓示説ヲ信セサルヘカラス已ニ眞宗ニ於
テ左ノ如キ分類ヲナシ眞宗ハ其中ノ横超ニ屬セルハ
直チニ相對ヨリ絶對ニ超達スルヲ云フナリ

大乘

頓教

横超(難行道聖道門即天台華嚴等)

漸教

横出(難行道聖道門即法相宗)

而シテ聖道門ヲ堅超堅出ト稱シテ之ニ堅ノ字ヲ配ス

ルハ其修行ノ相對的ニシテ漸々昇進シテ絶對ニ到達
スル方法ニヨルノ意ヲ示スナリ之ニ反シテ眞宗ノ如
キハ堅ニ相對ノ階級ヲ昇リ極ムルヲ要セス横ニ相對
ヨリ直チニ絶對ニ超達スル一種ノ新法ナレハ横ノ字
ヲ附シテ餘宗ニ區別シタルモノナリ然ルニ此點ハ聖
道諸宗ノ修行ト眞宗ノ修行ト一致適合セサルヲ以テ
眞宗信者スラ猶ホ其修行ノ因果ノ理ニ合セサルヲ疑
フ所ナリト雖モ是レ畢竟相對ヨリ絶對ニ達スルニ表
裏二道アリテ聖道門ハ表面ノ道ヲ取り淨土門ハ裏面
ヲ取りタルニヨルノミ固ヨリ因果ノ理ニ於テ二様ア

ルニアラサルナリ然レモ我人ノ所謂因果ノ理ハ相對
上ニアルモノニシテ絶對上ニ存スルモノニアラス何
者因果其者已ニ相對ナレハナリ因ハ果ニ對シ果ハ因
ニ對シテ因アリ果アルモノナレハ其相對ノ理法ナル
ト明カナリ故ニ人智ノ及フ所因果ノ理ノ存セサルハ
ナシト雖モ人智以外ナル絶對ノ内部ニ入りテハ因果
ノ沙汰ノ限リニアラス然レモ因果ノ理ハ絶對ノ躰ヲ
離レテ別ニ存スルニアラスシテ絶對ニ固有セル規則
ナルト亦疑フヘカラス唯絶對固有ノ規則ナルモ相對
ノ表面ニ其作用ヲ現スルモノト知ルヘシ例ヘハ眞如

ノ本躰ニ絶對相對ノ二面ヲ兼有スルト定ムルモ因果
ノ理法ハ眞如其躰ノ規則ナレハ絶對ノ面ニ其本源ヲ
有シテ相對ノ面ニ其作用ヲ示スモノト知ルヘシ故ニ
古來淨土門ノ阿彌陀及淨土ニツイテ一疑問アリ即チ
凡ソ因緣ニヨリテ所成セルモノハ皆生滅アリ阿彌陀
及其淨土ハ因緣所成ナリ故ニ生滅アルヘシト云フ是
レ全ク相對ト絶對トノ關係ヲ知ラサル論ノミ阿彌陀
ハ相對ヲ極メテ絶對ニ達シタルモノニシテ因緣ノ規
則及ヒ論理ノ推測ハ相對ノ範圍内ニ其作用ヲ示スモ
ノナレハ決シテ其理ヲ絶對ノ上ニ適用スヘキモノニ

眞宗哲學序論

アラス蓋シ淨土門ノ阿彌陀ハ差別相對ノ最上ニ位シ
 猶ホ差別ノ成立ヲ存スルモノナレハ因果ノ理法ハ表
 面ノ一部分ニ於テ應用スヘキモ若シ其躰ノ性徳ヲ論
 スルニ至リテハ絕對ト一致シタルモノナレハ因果ノ
 沙汰ニハアラサルナリ以上ノ道理ニヨリテ余ハ淨土
 門別シテ眞宗ハ實際上ニ絕對ヲ説クモノナレハ道理
 外ノ啓示ヲ待タサルヘカラスト云フナリ
 第三十三節 是ニ由テ之ヲ觀ルニ如何ナル宗教モ神
 佛若クハ聖賢ノ啓示ヲ要スルモノナレハ佛教モ縱令
 道理ニヨリテ組織セルモ同ク啓示ヲ要スルコト明ナリ

眞宗原理論第三

然ルニ聖道門ハ自力ノ修行ニシテ自證自知ノ法ナレ
 ハ啓示ヲ要スルコト淨土門ノ如ク甚シカラサルモ淨土
 及眞宗ノ教理ハ道理ニ屬スル部分ヨリ啓示ニ屬スル
 部分多クレハ特ニ啓示ノ必要ヲ説カサルヘカラス故
 ニ此點ハ聖道淨土ノ異ナル一點ニシテ眞宗哲學原理
 ノ一種ニ加フルモ決シテ不當ニアラサルナリ然レモ
 其啓示ノ裏ニハ必ス道理ノ伴フアリテ二者又決シテ
 相離レサルナリ故ニ若シ此點ニ於テ強テ聖道淨土ノ
 別ヲ示サント欲セハ聖道門ハ表面ハ道理ニ本ツキ裏
 面ハ啓示ニヨリ淨土門ハ表面ハ啓示ニヨリ裏面ハ道

理ニ本ツクト評定スルモ敢テ全ク妄言ニアラサルヲ
信ス凡ソ如何ナル宗教ニテモ神秘奇怪ヲ説カサルモ
ノナシ佛教各宗ニモ眞宗ニモ同ク此事アリ是レ人ノ
大ニ疑念ヲ抱ク點ナレモ世ニ理外ノ理アルコトハ又決
シテ排スヘカラス而シテ其理ニ物理外ノ理ト論理外
ノ理トノ二種アリ今佛教ノ神秘奇怪ノ談中ニ物理外
ノ理ニ屬スルモノト論理外ノ理ニ屬スルモノ、二種
相混スルヲ見ル例ヘハ我人ヨリ一層高等ノ佛菩薩ア
リト云フコトハ物理上ニテハ信シ難キモノニシテ所謂
物理外ノ理ト云ハサルヘカラサルモ論理上ヨリ思想

ノ原理ニヨリテ推究スルキハ全ク信スヘカラサルモ
ノニアラサルハ論理外ノ理ニアラサルニヨル然ルニ
若シ物理ニ照シテモ論理ニ考ヘテモ知量スヘカラサ
ル神秘奇怪ノ談ニ至リテハ之ヲ眞理トシテ信スヘカ
ラス例ヘハ父ナクシテ子アリ葬リタル死躰ノ蘇生シ
テ天ニ昇ルト云フ類是レナリ縱令此ノ如キ怪談ハ啓
示ナリトスルモ苟モ神ガ道理ヲ知ルモノナラハ此ノ
如キ物理ニモ論理ニモ合セサル不道理ノ啓示ヲナス
筈ナシ今眞宗ニテ説ク所ノ啓示ハ其裏面ニ道理ヲ含
有シ阿彌陀ノ存在ト云ヒ我人ノ救助ヲ受クヘキ理由

ト云ヒ道理上多少論定スルヲ得ルモノナレハ物理
外ノ理トスルモ論理外ノ理ニアラサルヲ明カナリ是
レ畢竟眞宗ト耶蘇教ノ異ナル一點ニシテ耶蘇教ハ啓
示一方ニヨリテ立テタルモノナレハ其神秘奇怪ハ物
理ニモ論理ニモ合セサル不道理ノ多シ今余ガ眞宗
ニハ啓示ヲ要スルト云フモ此ノ如キ不道理ノ啓示ヲ
云フニアラスシテ道理的啓示ヲ云フナリ換言スレハ
道理ト啓示ト二様一致ノ啓示ヲ云フナリ而シテ其一
致ノ點ハ實ニ妙味ノ存スル所ニシテ眞宗哲學ノ要處
ハ其レ此點ニアランカ

第七段 歸結論

第三十四節 聖道淨土ノ關係

第三十五節 平等差別ニ前後ヲ生スル理由

第三十六節 實際上眞宗ト他宗トノ關係

第三十七節 眞宗ト淨土宗トノ異同

第三十八節 眞宗ト政治トノ關係

第三十四節 上來眞宗原理ヲ三條ニ概括シテ論辨シ
タルヲ以テ其教理ノ組織ハ此三條ヲ綱目トスル所以
並ニ其聖道諸宗ト異ナルハ此三條ノ點ニアル所以已

ニ知ルヲ得タリト信ス今其原理ト佛教全躰ノ原理
 並哲學ノ原理ト如何ナル關係氣脈ヲ有スルカチ一言
 セントス抑モ眞宗ノ原理ハ淨土諸宗ノ原理ト大同少
 異ナレハ之ヲ概括シテ論スルヲ得ルモ聖道諸宗ノ
 原理ト其原理トハ全ク表裏相反シ別種ノ宗教ナルガ
 如ク見ユレモ是レ其表面ノ異ナルノミニテ裏面ニ入
 リテ兩方相較スルキハ互ニ一致スルヲ見ル唯其異ナ
 ルハ一方ニテ表面ニ説キタルモノヲ他方ニテ裏面ニ
 説キタルヲ是レノミ若シ夫レ佛教全躰ノ原理及哲學
 一般ノ原理ノ上ヨリ之ヲ視ルキハ表裏相反スル性質

ノ一佛教中ニ存スルハ却テ其完全ノ宗教ナル所以ニ
 シテ又其眞理ニ適合セル所以ナリ何者如何ナル道理
 ニテモ必ズ相反ノ理アルモノニテ其相反ノ理亦互ニ
 相連リテ表裏相離レサルモノナリ之ヲ先キニ二様並
 存一躰兩面ノ關係ト云フ若シ其相反二様ノ理ヲ全ク
 相離レタルモノト固執シテ其一躰連合ノ理ヲ知ラサ
 ルモノハ偏見ノ非眞理ニシテ其理ヲ知ルモノハ中道
 ノ眞理ナリ今佛教ハ徹頭徹尾此中道ノ眞理ニヨリテ
 組織シ眞宗ノ三原理ノ如キモ自然ニ表裏兩面ニ分レ
 純正哲學上ヨリ之ヲ視レハ表面ニ差別ヲ説キ裏面ニ

平等ヲ取り心理學上ヨリ之ヲ論スレハ表面ニ情感ヲ示シ裏面ニ智力ヲ含ミ宗教學上ヨリ之ヲ考フレハ表面ハ啓示ニヨリ裏面ハ道理ニ本キ表裏一致二様不離ノ眞理ヨリ成リタルモノナリ且ツ此三條ノ原理亦各一致對合スル所アリ即チ第一條ノ差別ハ第二條ノ情感ニ一致シ第二條ノ情感ハ第三條ノ啓示ニ對合ス何者眞宗ハ差別上ノ宗教ニシテ其立ツル所ノ佛躰ハ差別上ノ成立ト差別上ノ作用トチ有スルヲ以テ之ヲ信スルニハ智力ノ推究ヨリハ情感ノ想像ヲ取ラサルヘカラス又情感ニヨリテ想出シタル者ハ道理ノ測定ス

ヘカラサルモノアレハ聖賢ノ啓示ニヨラサルヘカラス而シテ若シ其裏面ニ入りテ之ヲ視レハ平等ト智力ト道理ト互ニ一致對合スルコトハ辨明ヲ要セスシテ知ルヘシ凡ソ如何ナル道理ニテモ之ヲ推究スル者ハ智力ニシテ其推究ニヨリテ差別ノ現象ノ裏面ニ平等ノ理法アルコトヲ知ルナリ故ニ其原理ハ歸スル所一原理ナリ以上ノ關係ヲ更ニ算式ニヨリテ示スコト左ノ如シ

$$\text{聖道門} = \text{平等} + \text{差別}$$

$$\text{第一聖道門} = \text{差別} + \text{平等}$$

$$\text{(故ニ)聖道門} = \text{聖道門}$$

聖道門 = 智力 + 情感
第二節 淨土門 = 情感 + 智力

(故) 淨土門 = 聖道門

聖道門 = 聖道門 + 密

第三節 淨土門 = 密 + 聖道門

(故) 淨土門 = 聖道門

是ニ由テ之ヲ觀ルニ聖道門ト淨土門トハ表裏前後ノ相違アレモ其總和ニ至リテハ同一ナリ故ニ聖道門ニシテ眞理ナラハ淨土門モ同様ニ眞理ナラサルヘカラス聖道門ニシテ完全ナル宗教ナラハ淨土門モ同様ナ

ルヘシ若シ之ヲ耶蘇教ノ上ニ考フルニ其教ト淨土門トハ表面上相似タル所アルモ前者ハ表面一方ヲ有シテ裏面ヲ缺キ後者ハ表裏兼備スルニ至リテハ大ニ異ナル所アリ是レ淨土門ノ耶蘇教ニ超過セル所以ニシテ併セテ佛教ノ完全ノ宗教タル所以ナリ
第三十五節 以上ハ原理上ノ論定ニシテ全ク眞宗ノ理論ニ屬スル部分ナリ是レヨリ此論ヲ歸結スルニ當リ實際上ノ應用ヲ論シテ其可否得失ヲ判セサルヘカラス眞宗モ餘宗モ共ニ一佛教中ノ宗旨ナレハ局外ヨリ公平ノ觀察ヲ下スルハ理論上ニ於テハ各表裏兩面

ノ關係ヲ具シ對等同權ノ資格ヲ有スルヲ以テ其間ニ優劣ヲ判シ難シト雖モ實際上ニ至リテハ大ニ得失ヲ異ニスル所アリ今之ヲ判定スルニ先チテ第一ニ論辨セサルヲ得サル點ハ佛教ノ原理ハ平等差別表裏一致ハ中道ナリトスルモ何故ニ或ハ平等ヲ主トシ或ハ差別ヲ主トスルコトナスヤ何故ニ直チニ中道其者ヲ取ラサルヤ又其二様ノ理均シク聖道門中ニ存スル以上ハ何ソノ必要アリテ更ニ別ニ淨土門ヲ開立スルヤ等ノ疑問ナリ先ツ或ハ表面ニ平等ヲ取り或ハ裏面ニ差別ヲ取ルハ其本意飽マテ中道ヲ取ルニアルモ實際

上之ヲ許サ、ル事情アルニヨル例ハ此ニ一枚ノ紙アリ表裏兩面ヨリ成ル我今其紙ノ全體ヲ見シト欲スルモハ必ス先ツ表面ヲ見テ後裏面ニ及ホスカ若クハ先ツ裏面ヲ見テ後表面ニ及ホスカ二者中其一ヲ擇ハサルヘカラス決シテ表裏二面ノ先後ヲ立テスシテ同時ニ其全體ヲ併視スルヲ能ハス今佛教ハ表裏二面即チ平等差別二様ニヨリテ成リタルモノナリ若シ其全體ヲ窺ハントスルモハ自然ノ勢必ス平等ヲ先キニスルカ差別ヲ先キニスルカ二者中其一ヲ擇ハサルヘカラス是レ聖道諸宗ノ表面ニ平等ヲ取り裏面ニ差別ヲ

取リテ二者ノ上ニ先後ヲ生シタル所以ナリ聖道門已ニ此ノ如キ順序ヲ取ル以上ハ之ニ對シテ表面ニ差別ヲ取リ裏面ニ平等ヲ取リテ中道ノ平均ヲ計ルモノナカルヘカラス是レ淨土門ノ組織ノ聖道門ニ反對シテ起リタル所以ナリ此二門相合シテ始メテ完全公正ノ宗教組織ヲ見ルナリ

第三十六節 果シテ然ラハ更ニ一問アリテ起ル聖道門モ佛教ノ一部分ナリ淨土門モ佛教ノ一部分ナリ決シテ其間ニ優劣ヲ判スベカラス然ルニ淨土門ノ人ハ淨土門ヲ以テ最勝ノ教トナスハ如何曰ク聖道モ淨土

モ共ニ佛教ノ一部分ナレモ一部分ノ裏ニ全軀ヲ具スルハ亦佛教ノ哲理ニシテ先キニ差別ノ裏ニ平等アリト云フモノ是レナリ因テ淨土門ハ聖道門ト對等同權ノ資格ヲ有スルヲ明カナリ然ルニ淨土門ニテ其教ヲ最勝トナスハ理論ノ比較ヨリハ寧ロ實際ノ關係ヨリ生スルモノナリ實際ノ關係トハ今日ノ時機ニハ平等說ト差別說ト孰レカ適合スルヤ難行道ト易行道ト孰レカ相應スルヤノ考察ヲ云フ蓋シ先キニ第九節ニモ述フルカ如ク眞理ハ平等差別ノ中道ニアリト云フモ若シ其當時ノ世論平等ノ一方ニ偏スルキハ中道ノ中

心點ハ差別ノ上ニアリ又差別ノ一方ニ偏スルキハ其
 點ハ平等ノ上ニアルヘシ故ニ時機ニ照合シテ考察ス
 ルキハ淨土差別ノ論ノ却テ中道ノ權衡ヲ保チ聖道平
 等ノ論ノ却テ其正平ヲ失スルコトアリ然ルニ今日ノ時
 運ハ佛教ニテハ末代惡世ト説キテ聖道自力ノ難行ノ
 適サ、ル時ナレハ淨土他力ノ易行ニヨルヨリ外ナシ
 ト考定シ來リテ淨土門ノ聖道門ニ勝ルコトヲ説クニ至
 レルナリ故ニ我人社會ノ實情ヲ觀察シ一身ノ狀態ヲ
 省思スルキハ正ク淨土門ノ時代ナルコトヲ知ルヘシ而
 シテ今日ヲ末代惡世ト云フハ佛教ノ正像末三時ノ説

ヨリ出テタルモノナリ此三時ノ説ハ世ノ退化ヲ示ス
 モノナレハ今日ノ進化説ニ背反スルト論スルモノア
 レ此退化説ハ宗教ノ實行上ニ於テ立テタルモノニ
 シテ宗教ノ性質上ヨリ考察ヲ下サ、ルヘカラス今日
 ハ漸々進化シテ種々ノ學說發達シ來ルモ其發達ニヨ
 リテ得タル知識道理カ却テ我實行ヲ妨ケ宗教ニテ定
 ムル所ノ安心立命ノ法則モ守ル人少ナキニアラスヤ
 且ツ宗教ハ學術上ニ考究スルカ如キ人智ト共ニ變遷
 スル眞理ニヨリテ組織シタルモノニアラスシテ萬世
 不變ノ眞理ヲ其教祖ノ啓示ニヨリテ組織シタルモノ

眞宗學者序論

ナレハ學術ト宗教トヲ混同シテ比論スヘカラズ然ルニ世人ハ學術上ノ變遷的眞理ノ發達ヲ見ルキハ忽チ不變的眞理ノ宗教上ニ存スルヲ忘レ宗教其者ヲ排スルニ至ル故ニ宗教上ニテハ退化ヲ唱ヘサルヲ得サルナリ此ノ如キ今日ニアリテハ聖道ノ難行ハ到底適サレハ淨土宗祖師及眞宗開山ハ他力易行ノ道ヲ説キ示シテ時機相應最勝至適ノ法ナリトナセリ是レ實ニ時機ヲ看破シタル千古ノ活眼卓見ト謂フヘシ

第三十七節 若シ更ニ實際上ニ涉リテ論スルキハ眞宗ノ卓見此外ニ存スルモノ幾多アルヲ知ラス今其二

歸結論

三ヲ陳述スヘシ抑モ眞宗ハ淨土宗ヨリ分派獨立シタルモノナレモ多少其主義ヲ異ニスル所アリ二宗共ニ他力往生ヲ唱フルモ淨土宗ハ阿彌陀ノ佛力ニ依憑スルト同時ニ多少自身ノ善行ヲ加フルヲ以テ未タ純全ノ他力教ト云フヘカラス又其念佛ノ如キモ口稱ノ功カニ依頼スルカ如キハ猶ホ自力ノ一部分ニ屬スル所アリ且ツ其世間ニ對スル一段ニ至リテハ淨土宗ハ聖道諸宗ノ主義ニ異ナラサルナリ今眞宗ハ然ラス其宗義ハ世外ノ佛ニ對スル部分ト世間ノ人ニ對スル部分トノ二段ニ分レリ其一ヲ眞諦ト名ケ其二ヲ俗諦ト名

ケ此二諦兼行ヲ以テ其宗ノ本旨トス即チ佛法ト王法トヲ兼説スルモノ是レナリ眞諦門ノ上ニテ云フキハ眞宗ハ一佛躰ヲ立テ、一向專念ヲ唱ヘ餘行雜善ヲ混セス唯一心ニ其佛力ニ歸順スルヲ説キタルハ實ニ卓見中ノ卓見ニテ純然タル他力的宗教ノ真相ヲ開顯スルモノナリ故チ以テ眞宗信者ハ禁厭祈禱以テ一時ノ禍福ヲ僥倖セントスルカ如キ卑劣ノ所行ヲナサス其平素ノ佛ニ對スル業務モ稱名念佛ニシテ南無阿彌陀佛ノ六字ヲ稱念スルニアリ其稱念モ信心正因ト云ヒテ徒ラニ口ニ稱スル念佛ヲ云フニアラス佛力ノ不

可思議ヲ信知シテ之ニ歸順スルヲ云フ斯クシテ其心定リタル上ハ其日夜ノ稱名ハ報恩ノ業務トシテ佛恩ノ廣大ナルニ報謝スル意ナリ其他佛前ニテ營ム所ノ讀經禮拜等モ亦皆報恩ノ一部分ニ外ナラス是ヲ以テ眞宗ハ其儀式莊嚴供養等モ專ラ單純ヲ主トシ偶像ノ如キモ六字名號ヲ以テ足レリトシ純全ノ他力教ヲ完成スルニ至レリ其信者ヲシテ阿彌陀一佛ニ歸向セシメタルカ如キハ實ニ大ニ世間ノ人心ヲシテ一致結合セシムルノ益ヲ與ヘリ若シ聖道諸宗ノ如キ自力成佛ノ法ニ於テハ人々孤立スルノ傾向アリト雖モ淨土諸

宗就中眞宗ニ至リテヨク人心ヲ一結シテ宗教世界ニ
勢力ヲ有スルニ至リタルハ其教義ノ中ニ一佛專念ヲ
立ツルニヨルハ明カナリ此點ハ亦大ニ國家ノ獨立ニ
關係ヲ有スル所ナリ何者政治上宗教ノ必要ヲ感スル
第一點ハヨク人心ヲ團合一結シテ其國ノ獨立ヲ維持
スルニカアレハナリ以上ハ眞諦門ト實際ノ關係ナリ
若シ俗諦門ノ上ニ考フルキハ眞宗ニ於テハ出世間道
世ノ宗風ヲ一變シテ世間俗流ノ宗規ヲ立テ僧侶ノ蓄
妻噉肉ヲ許シ王法爲本ヲ説キ敬神愛國仁義禮讓ノ世
道ヲ遵守スルコトヲ勸メ國勢ト共ニ其教ヲ盛ニセンコ

ト期シタルカ如キ是レナリ其國利ヲ助ケ民福ヲ進メ
世教政道ニ裨補スル所少カラサルハ余カ辨ヲ待タス
其眞俗二諦ノ如キモ歸スル所平等差別二様並存ノ道
理ニ本ツキ世間出世間ノ中道ヲ取りタルモノニ外ナ
ラス故ニ眞宗ハ我邦宗教歴史ニ於テ理論上並ニ實際
上ニ於テ前後ニ比類ナキ一大改良ト謂フヘシ
第三十八節 此ノ如ク眞宗ハ理論上ニテモ實際上ニ
テモ實ニ美ヲ盡クシ亦善ヲ盡クシ完全大成シタル宗
教ナリ然ルニ世人ハ之ヲ愚民ノ妄想ニ歸シ未來ノ怪
談ニ屬シ更ニ政道人事ノ上ニ裨益ヲキモノト見做セ

ルハ獨リ宗教ノ爲メニ遺憾トスルノミナラス國家ノ爲メニ遺憾トセサルヲ得ス抑モ我邦今日ノ如キ文運ノ隆盛ナルハ前代未タ聞カサル所ナリト雖モ政海未タ穩波ヲ見ス人心未タ水平ヲ保タス前途雲深フシテ殆ント行ク處ヲ知ラス是レ豈余輩ノ高臥安眠スルノ時ナランヤ嗚呼將來何ニヨリテ此政海人心ヲ靜定セシヤ是レ實ニ憂國者ノ苦心焦慮スル所ナリ凡ソ何レノ國何レノ世ヲ問ハス政治ノ裏面ニ必ス宗教ノ存スルアリテ一國ノ安寧ヲ保持スルヲ見ル政治ハ車ノ如ク宗教ハ油ノ如ク政治ヲシテ圓滑ニ回轉セシムルモ

ノハ宗教ナリ政治ハ紙ノ如ク宗教ハ糊ノ如ク人心ハ障子ノ骨子ノ如ク政治ト人心ヲシテ互ニ附着粘合セシムルモノハ宗教ナリ宗教ノ政道人事ニ裨益アルコト此ノ如シ而シテ世間未タ誰レモ意ヲ宗教ニ注クモノアルヲ見ズ是レ實ニ奇怪ト謂ハサルヲ得ス然レモ今ヨリ數年ノ後ニハ必ス政界ノ渡頭ニ立チテ宗教ノ舟ヲ呼フ時アラン是ニ於テ始メテ宗教改良ノ論政治上ノ一大問題トナルヘシ然ルニ我邦宗教ノ改良ハ已ニ六百五十年ノ往時ニ成功シ爾來相傳ヘテ今日ニ流布スルヲ見ル復タ何ソ更ニ改良スルノ必要アランヤ然

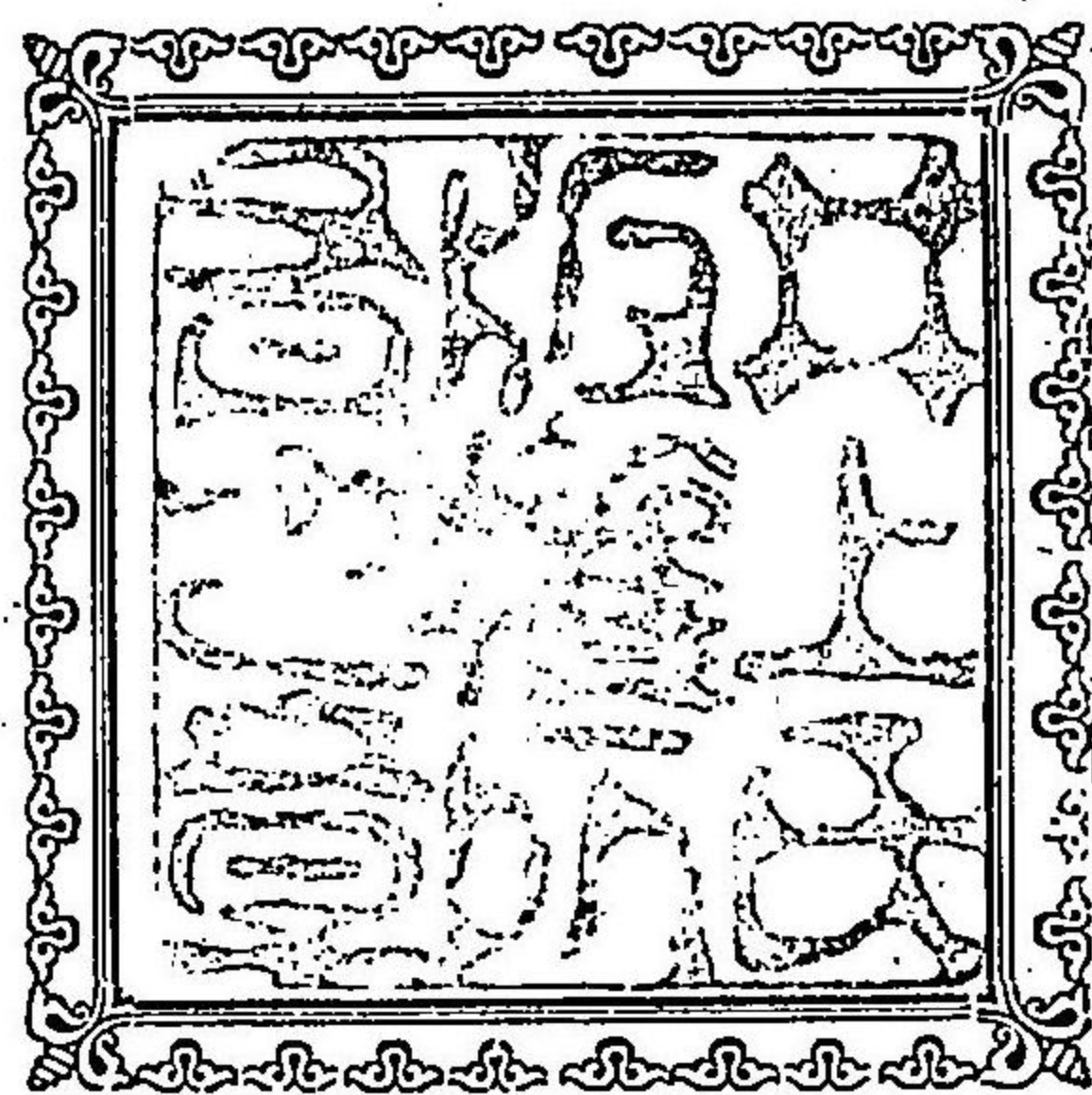
ルニ其宗旨ハ今日依然トシテ舊時ノ形容ヲ存スルモ
六百年古ノ精神ハ物ト共ニ換リ星ト共ニ移リ去リテ
今何レニアルヲ知ラス彼ノ如來大悲ノ恩德ハ身ヲ粉
ニシテモ報スヘシ師主知識ノ恩德モ骨ヲ碎キテモ謝
スヘシノ遺訓ハ唯其語ヲ留メテ其實ヲ見ズ宗祖今此
ニ在ラハ之ヲ何トカ言ハン苟モ護法ニ志アルモノ憤
然トシテ起リ慨然トシテ嘆セサルヲ得ンヤ蓋シ眞宗
ノ諸宗ト共ニ衰ヘ來リシハ決シテ今日今時ノ事ニア
ラス正ク徳川氏治世ノ間ニアリテ當時已ニ佛日地平
線下ニ没シタルヤ疑ナシ爾來長夜漫々三百餘年ノ久

キニ及フ其間法燈僅ニ殘光ヲ留メテ凄風蕭雨ノ間ニ
明滅シテ今日ニ至ル今ヤ明治ノ盛代ニ會シ天邊再ヒ
佛日ヲ現スル時ナリト雖モ四面猶ホ暗フシテ人皆夢
中ニアリ然レモ何ソ知ラン東天遙ニ旭光ヲ漏ラシ
テ半空已ニ白キヲ遠ク此光ヲ望ンテ雞鳴一聲以テ晨
ヲ報スルモノ果シテ誰ゾヤ是レ余カ獨リ眞宗ニ向ヒ
テ望ムノミナラス諸宗ニ向ヒテ望ム所ナリ南無阿彌
陀佛

眞宗哲學序論終

明治二十五年五月四日印刷
全 年全月五日出版

新編
醫學



著作者兼
發行者

新瀉縣平民

井上圓了

東京市本郷區駒込蓬萊町
廿八番地

印刷者

東京府士族
根岸高光

同牛込區市夕谷加賀町
壹丁目貳拾三番地

發賣所

哲學書院

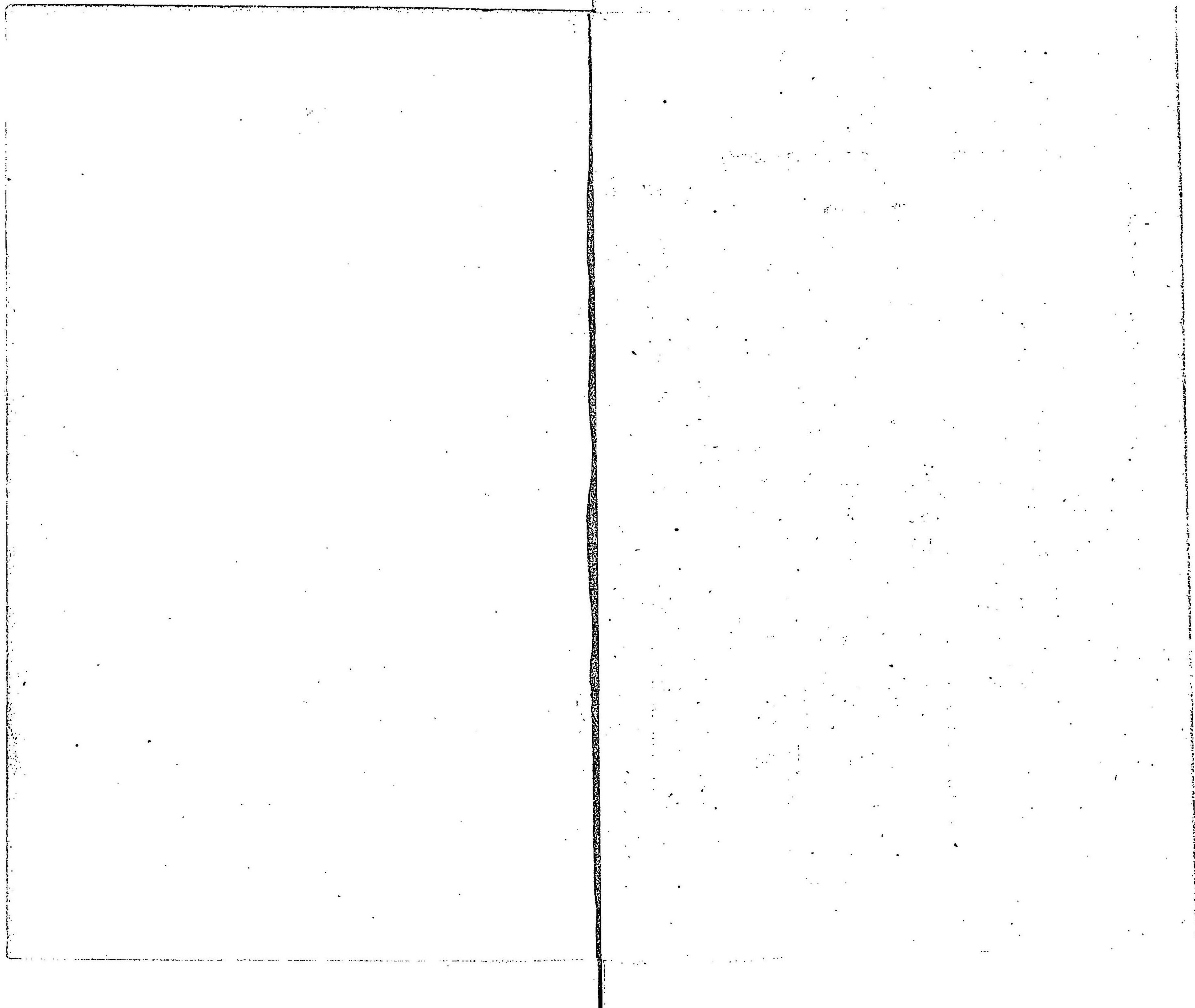
同本郷區本郷六丁目
五番地

大賣捌所

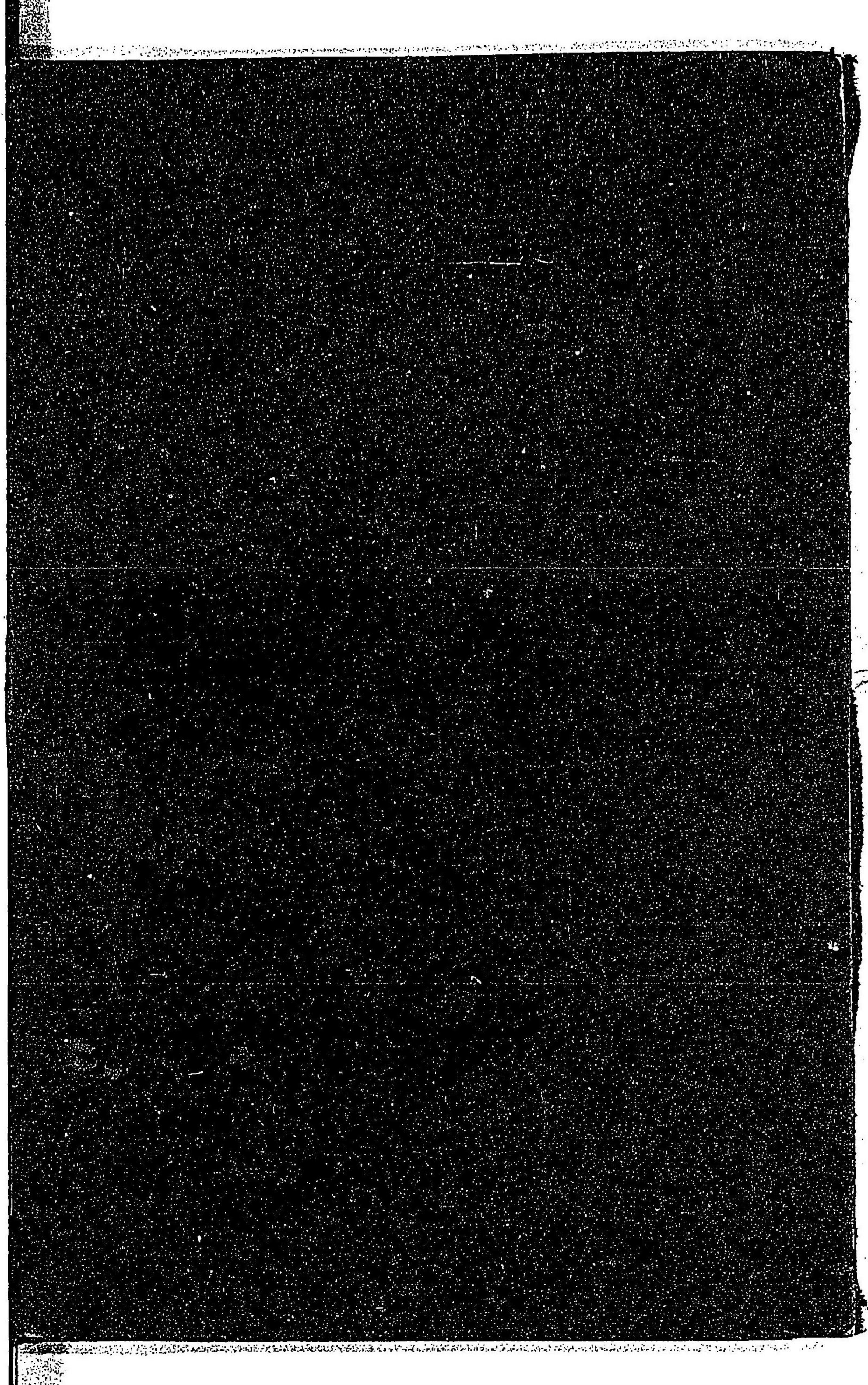
大坂松村九兵衛
東京小林新兵衛
京都興教書院
熊本長崎次郎

定價金參拾錢

東京秀英舍印刷



68
213



68
243

018550-000-6

68-243

真宗哲学序論

井上 円了/著

M25.5

ABF-1810



